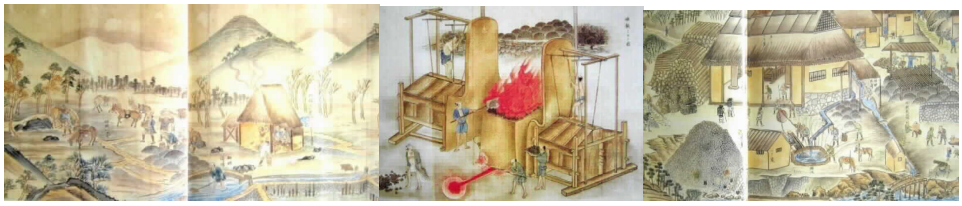
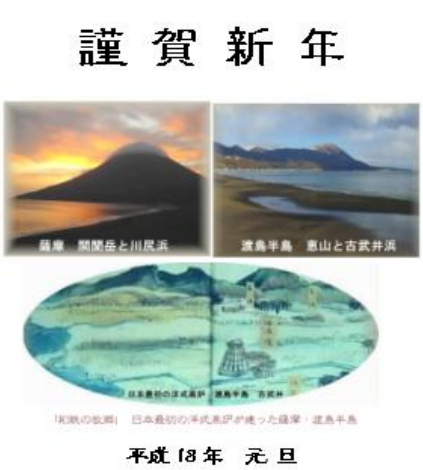
2006 四季折々 Mutsu

1. 2006年 年賀 「IRON ROAD 和鉄の道」From Mutsu Nakanishi



「先大津阿川山砂鉄洗取之図」より

「愛」 心の平和が皆様のうえにありますように



12月になって　それまでの暖かさがうそのような本当に寒い寒い極寒の日が続いています。
風などひかれませんように

神戸では　冬の風物詩として定着した「ルミナリエ」も始まり、師走。
最近はそんな世相とは離れ、師走といっても　ビンときませんが・・・・・
今年を象徴する言葉は「愛」だという。「愛」が今ほど渇望される時代はないというのが理由。

某新聞は今年の現実を象徴する言葉は「崩」。「愛」が本当に必要なのだと書いていました。
「愛」ほど深い言葉はない。
思い返すと次から次へと良いことも悪いことも次から次へと「愛」の場面が浮かんでくる。
世の中が「ディジタル」 「ユビキタス」を喧伝し、中身も考えずに　みんな乗り遅れまいともがいて、かつての「効率・合理化・コストダウン」に走った時代とが重なつて見える。
日本人の好きなこんな「リーダー至上主義」に一抹の不安を抱いている。

「みんなで渡れば怖くない信号」 ふっと一人　たたずんだ時の不安感。そんな不安感もまた　世間に広がっている。

本当に時代が変わる。

そんな中でしちめんどくさい議論よりも「丁半」バクチ。それが「改革・ディジタルの選択」という。

その判断の根底までもが、「丁半」では????

「縄文は日本人の心のふるさと」 「万葉は心のふるさと」とよく言われるが、自分を揺り動かす「心のふるさと」 「心情」がなければ・・・・・

「ちょっと待て　車は急にはとまれない」である。
「衝動に駆られても　してはならないことをやらない判断・心情」
軽薄なディジタルの「手法」ではでてこない「理念」が一番求められている。社会一般ではほとんど　かえりみられないが・・・・・

ディジタル・情報社会がスピードを求め、「不連続な革新　現在・今」を求めているのに対し、
「判断の力」は「経験・理解・コミュニケーションなど過去・現在・未来の連続性」の中からしか生まれない。
時代が変わろうとしている時　「原点に帰れ」とよく言われるが　日本人も今一度「原点に帰るとは何か?」を考える時ではないでしょうか。。。。。

今年一年　常識的には考えられないことが多く起っています。でも　それを煽ったのは誰か・・・・
「かつての寵児が　今批判の的」そんな構図がこの 10 年繰り返し繰り返しつづいている。
そんな中で　きちがいじみたことが起こり、その矛先が「年寄り・老人・子供」などの弱者に向いている。

自分に限って・・・　　まさか　自分にふりかかろうとは・・・・ではない。
「踊らす方も　踊る方も　もそんな立場から　もうそろそろ卒業しないと。

野次馬ではすまないグローバル　インターナショナルの社会

「争いを知らぬ縄文はこころの故郷」といわれるが、「踊らされない　踊らない　やさしいエコの社会へ」
「崩」から「愛」へ　ひとりひとりが自分の判断力を養わないと本当に冷たい社会になりかねない。
「愛」という言葉に　今年一年のインターネツト配信を読み返しながら、そんなことを思い巡らしています。

また　引き続きお付き合いのほどよろしく。

2006.1.1.

神戸にて　ホームページ更新に一年を思い返しながら

Mutsu　Nakanishi

2.　2006年　2月　「IRON ROAD 和鉄の道」from　Mutsu　Nakanishi

2月16日空港開港を迎える神戸　南京町は春節祭　春近しです

2006年2月　ホームページを更新しました

2月になり、さすがの寒さも落ち着いて来ましたが、厳しい寒さがつづきましたが、いかがだったでしょうか

神戸殻の2月の便り　相変わらずですが、本年最初のホームページの更新です。

豪雪の寒い冬　豪雪地に重なる過疎地のすごさに驚いています

TVでみる豪雪の被害に「雪見」に行く気分でもなく、神戸にこもったままでした。

年末に札幌から東京に転居した娘家族が2年ぶりに神戸に帰ってきて華やいだ1月でした。

上の孫娘は今度新一年生。下は生まれて 10 ケ月。本当に成長の早いのに驚き。　ひとり残った孫娘に付き合って　ランドセル・パソコン・神社・公園・温泉とシジバカやりました。

巷では耐震構造設計の偽装にライブドア事件そしてアメリカ産牛肉とあきれかえる出来事の中で新しい年が始まりました。 ほんの一握りの人に心地良い社会なんて　まっぴらと思うのですが、言葉とは裏腹に弱肉教職の階層分化が進んでいると思えてなりません。 歯止めの効かない社会への傾斜　今考えねば。。。

薄っぺらな言葉に操られることなく「知恵」が働かないと・・・・

まあ　ぼやいていても仕方ないのですが、自分の身の置き所は何処なのだろうか・・・・・と思うこの頃です

空港開港の旗がはためく神戸元町界隈　2006.1.30　「春節祭」で賑わう神戸南京町　2006.1.30

花のない庭に遅れていた「蝋梅」も花をつけ、いつもの香りを漂わせ、春近し。

神戸の街には2月16日開港する神戸空港の旗がひらめき、南京町では「春節」の祭りが始まりました。

神戸空港の是非はあるもののここまできたら、どう活かしてゆくのかを考えねば・・・。

この新しい人工島には新空港とともに先端ロボッとのプロジェクト拠点が置かれ、ロボット技術の先端化と医療・防災への融合が推進されるという。　大震災を経験した神戸で　新しい技術・ビジネスが芽吹き、その拠点としてこの人工島が空港とともに使われることに期待。

行政の掛け声倒れと二番煎じにならぬこと　若い技術・研究者のナショナルセンターにでも発展していけば、空港も価値がある。

●　ホームページ　更新のお知らせ

遅れましたが　本年最初のホームページ更新をしました。

昨年1年掲載してきた記事を読み返しながら、昨年の風来坊を思い出しながら、三つのpdf fileに整理して2005ファイルを作成しました。

「和鐵の道　Iron Road　2005」「風来坊　Country Walk 2005」「四季折々　思いつくまま 2005」
「たたら」遺跡など随分歩いたたつもりですが、まだまた、判らない事ばかりです。

「鐵」の字のほかに「馬」篇に旁「戠」の「驖」という字もあって、どちらも「テツ」と読む

昨年より、図書館棟で色々教えてもらったりしている「砂鉄認識」のルーツ探しの過程で知った「鐵」の字源について、 NHK TV で見た「新シルクロード　草原の道」で見た「シルクロードを駆ける天馬」に重ねました。

「鐵」の字源を調べて　シクロードの草原の道を駆け抜けた鐵

また、ホームページの　top page を　Java　script で試行錯誤しながら作成。
「ホームページ掲載リスト」「当月ホームページ掲載記事概要」がポップアップで見えるように整理しました。
まだ、不勉強できっちり出来ているのか　心配です。
あまり良い出来の内容ではありませんが、暇なときにでも眺めてください。
また、ご意見　ご感想ならびに色々な情報など　お知らせください。

2006.2.1.　神戸にて　Mutsu Nakanishi

2006.2月　from Kobe

● *西アフリカ　カメルーンの江口一久さんの拠点からの便り*

こちら、気候とのたたかいです。
一日の温度差にあわせることがたいへんなのです。だいたい、１５度くらいの上下があります。
家の中と、外でも、６,７度の差があります。
ペッテ村の井戸から、水がどんどんでてきて、一日中、水をくむ人でにぎわっています。
よくもまあ、こんなことができたのだなあとおもっています。

西アフリカ　ペッテ村井戸掘りプロジェクト　代表　江口一久さん

● *今冬の豪雪・過疎に思いをはせて*

今年の豪雪と過疎のすごさが TV で報じられていますが、昨年でかけた北近江・若狭国境の赤坂山。山頂の峰筋を越える大送電線が先日の雪害でこれがストップして大混乱を起こした若狭の原発と関西を結ぶエネルギーの大動脈。 かつての「和鐵の道」がエネルギーの道として続いていることにびっくり。
真っ暗な夜空　雪の壁の中をもくもくと石北峠　そして　東北　奥羽山脈・北上山脈の背骨を越える東西の仙人峠を汽車で越えたことを今年の豪雪にダブらせています。
雪の深さとそこに人家がポツンとあることに息を飲んでただただ　すごさにぽかんとして窓の外を食い入るように眺めていました。そして　、昨年秋　別子山村　都会とほんの山一つ隔てた過疎のすごさ。
都会人が　都会の尺度でのみで日本を論じてはいけない。　過疎の責任は都会人も担わないと。
いずれそのしっぺ返しが絶対くる。

先日　新聞に載っていた記事

世の中車社会になって郊外に大型店舗が出来て商店街・駅が荒廃し、街の核が消えた。
その車を運転して郊外に出かけていた世代が高齢化して　車に乗れなくなっている。
郊外型の大型店舗もまもなく下り坂。
高齢化はますます進み　街中で暮らせねばならなくなる時代がまもなくくる。
そのとき　昔の街はなし。街の荒廃とともに都会の中の過疎が静かに進んでいる。
大都会・中核都市の街中マンションに移住できなかつた大部分が取り残される。

掲　載　記　事　概　要　　【　2006年　2月　new page　】

1.　『鐵』の字源を調べて　『シクロードの草原の道を駆け抜けた「鐵」』

字源は「「鐵」は五金の王なり」とづっと思っていましたが、どうもそうではないらしい。

漢字には「金」篇に旁「戠」の「鐵」の字のほかに「馬」篇に旁「戠」の「驖」という字もあつて、どちらも「テツ」

と読む

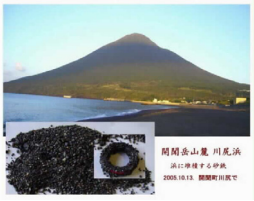
漢字にその痕跡が残されたシルクロードを駆ける「天馬」驌と「鐵」

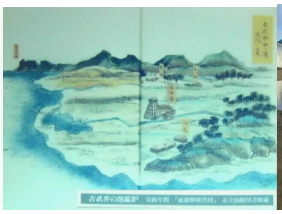
「鉄」はシルクロードを馬にのつて、西から東に駆け抜け、日本にも伝来したのではないか・・・字源をさぐりました

NHK 新シルクロード　草原の道より

2.　「和鉄の道　Iron Road 2005」　口　絵

昨年訪ねた「たたら」製鉄関連遺跡の中から下記の 3 つの Item にまとめて、写真を掲載しました





薩摩　知覧の石組製鉄炉　と開聞岳山麓の砂鉄浜　　北海道　古武井の洋式高炉と古武井海岸の砂鉄

1.（北海道渡島半島古武井海岸・薩摩知覧の石組製鉄遺跡）

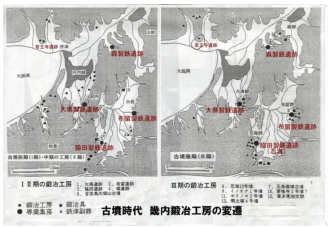
日本の北と南の端で、日本近代化の夜明けを告げた薩摩と北海道渡島半島の製鉄遺跡を訪ねる

2.（加計鉄山絵巻・永代たたらの原型となった芸北たたら）

江戸期隆盛をきわめた「永代たたら」の原型がつくられた芸北のたたら遺跡を訪ねる

3.（大県・忍海・河内森製鉄遺跡群）

古代　大和王権の日本統一を支えた畿内の大規模官営鍛冶遺跡とその変遷



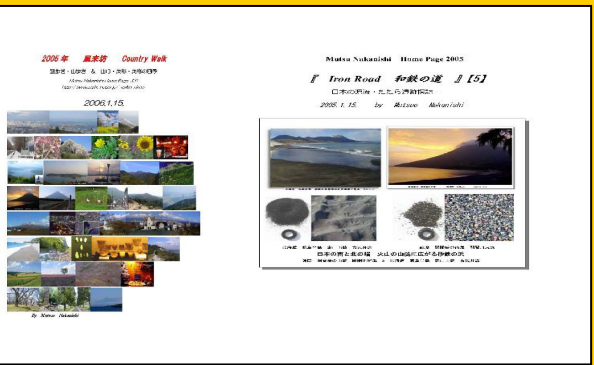
永代たたらの原型　芸北のたたら遺跡　　古代　大和政権を支えた大規模鍛冶生産工房

3.　2005 年　Mutsu Nakanishi home page.

昨年 1 年の間にホームページに掲載してきた記事を整理・収集して三つの pdf file に整理しました。

「なんでもみてやろう」の風来坊　取り立てていうべき記事ありませんが、各地に足跡が残りました。

「和鐵の道　Iron Road　2005」
「風来坊　Country Walk 2005」
「四季折々　思いつくまま 2005」



3.　　2006年　3月　「IRON ROAD 和鉄の道」from　Mutsu　Nakanishi

京都清水寺蝦夷の雄アテルイの碑 & 神戸和鉄の山郷　辰砂と鉄の丹生山・押部谷

神戸からの春の便りです　　2006.3.10.

「いかなご」漁が解禁になって　活気づく明石　魚の棚商店街

3月になってやっと梅も花を咲かせ、春の足音が聞こえてきました。
例年だと神戸の春の風物詩「いかなごの釘煮」のにおいが街に立ち込めるのですが、
冷たい大阪湾に「いかなご」の成長が遅れ　「いかなご」の成長待ち
道具を出して　はりきっていた家内も　釘煮をはじめたところです
庭先でも　やっと花が咲き出し、昨日　土手でタンホポの花を見つけました
あたたかい日が多くなって、春がもうそこまで来ている感じがします

2006.3.10.　神戸にて　　Mutsu Nakanishi

春の花が咲いたら　ホームページ更新しよう。　神戸の風物詩　いかなごのくぎ煮がはじまったら更新しよう。

そう思っていましたが、今年は春が遅く、やっと　梅の便りが聞かれるようになりました。

大阪湾のいかなご漁も解禁になっていますが、「小さくて　釘煮が出来るようになるまで、毎日チェツクしながら成長を待っている。」 そんな会話が神戸の街では飛び交っています。

おかげで　毎年出る花粉症　今のところ軽症で、ラッキーです。

相変わらず、ぶらぶら　風来坊　なんでも　みてやろう　元気にやって、今日　ホームページ更新しました。

相変わらずですが、暇な折にでも　ご覧ください。

最近の風来坊で　感激した写真2枚　掲載します。

大津市上仰木製鉄遺跡からみた比良山系　蓬莱山と打見山

「ひかりごけ」が輝く和鉄の里　三木市志染

●大津市上仰木　上仰木製鉄遺跡からの　比良連峰「蓬莱山・打見山」

久しぶりに近江へいって、雪のかぶった比良連峰　蓬莱山・打見山をじっくり眺めました。
学生時代　山小屋があったのでよく登って、小屋で語り合ったものでした。
比叡山の麓の丘陵地　上迎木で　比叡山の製鉄・鍛冶工房と見られる製鉄遺跡が出たと聞いて出掛けました。
そっちの方はまだ整理していませんが、そのときに　上迎木から見た蓬莱・打見山の写真です。
学生時代に何度も出掛けた山ですが、　雪をかぶり堂々とした姿をじっくり見るのは本当に久しぶり。
懐かしくて、上迎木製鉄遺跡見学そっちのけで　見とれていました。

●古代　記紀伝説の三木市志染の岩屋でみた光ゴケ

5 世紀、履中天皇の皇子市辺押盤皇子が継体天皇に暗殺された時に皇子の二人の御子　憶計・弘計が難を逃れてこの地の豪族　韓鍛冶　忍海部細目にかくまわれて成長。その後この二人の皇子は顕宗・仁賢天皇を即位したとの記述が播磨風土記や記紀にある。

その二人の皇子が隠れていたという志染の岩屋。丹生山を中心とした神戸の北部から三木にかけては　古代　大和の葛城山に本拠を置く韓鍛冶　忍海部氏の治める領地。
神戸　丹生山の記事をまとめて、場所は知っていたのですが、きっちり確認しておらず、気になってでかけました。
岩屋の中には水が湧き出ていて、そこに生息するひかりゴケが光り輝き昔から「金水」の名がつけられている。最盛期には右の写真のように光り輝くという。
わたしが訪れた 3.8. これほどでもなかったですが、誰一人いない岩屋で光っていました。
（　水質が一時悪くなって　絶滅の危機があったようですが、水質が　改善された最近　また　ひかりだしたという　）

2006.3 月　from Kobe　　思いつくまま

1.　最近の発掘調査　速報　雑感

2 月　3 月例年　発掘調査速報が新聞紙上をにぎわすが　今年はさらに例年になくにぎやかである。
そんな中で気になった記事紹介

●　山梨県　北杜市　梅之木縄文遺跡　日本人の心のルーツ　平和な縄文の集落の形がそっくりそのまま出土

2006 年 2 月 28 日の朝日新聞で縄文の環状集落がそっくりそのまま初めて出土したとの記事が掲載された。山梨県北杜市梅之木縄文遺跡　　場所は南アルプスや八ケ岳そして富士山を遠望できる茅ケ岳の西麓の扇状地という。「広場を中心に円形に住居が取り囲む」円形の集落 どの遺跡でも同じとはいえないのでしょうが、この広場に先祖・死者が葬られれ、亡くなった人と共に同じ空間で生活するのが縄文。

「争いを知らない縄文」「日本人の心のルーツ」
この形がそれを具現するといわれれ、それがそっくりそのまま出土したという。
ずつと　あこがれてきた　縄文集落の形　　是非　壊さずに残してほしいものである
雪が消えたら　すぐにでも　見学にでかけようと思っている。

● 加速器 C14 年代測定法の結果が弥生そして古墳時代の時代観を変える

例年のことであるが、2,3 月は発掘された日本列島の新発見速報で忙しくなる。
今年も次々と新発見考古速報が新聞紙上をにぎわしている。
国立歴史民俗博物館が数年前加速器 C14 年代測定法により「弥生時代の始まりは 500 年遡れる」と発表し、賛否両論　数々の検証がすすめられている。
そして、山内丸山縄文遺跡の発掘が縄文の歴史観を替えたように、弥生の始まりにととどまらず、今まで伝えられてきた日本列島稲作の伝播・日本列島の稲作の風景を変えようとしている。
DNA 分析もそうですが、解析技術・手法の発明・進歩が真実を解き明かし、時代を変えてゆく。
逆に考えると解析技術・手法の限界を見誤ると真実が捻じ曲げられる。
技術屋の心せねばならないところだろう。

世の中　偽者と本物益々巧妙となり、それを見分けることは益々難しく、人によって判断することが多い。
本当に信用できるのか・・・　いやな時代である
隣近所　暢気坊主でいければどんなにいいか・・・・
昭和 30 年代の下町を描いた映画「always 夕日町 3 丁目」がヒットしているのもそんなノスタルジックな世界に郷愁を覚えるためでしょうか・・・・。
でも現実は厳しい。どうすればいいのか　解はなし　自分の生き方で示さねばなるまいと思う。

2006.3.1.　Mutsu Nakanishi

掲載記事　概　要　　【　2006 年 3 月　new page　】

■　和鉄の道　Iron Road　　たたら遺跡探訪

1. 神戸　古代の和鉄の山郷　丹生山とその山腹に露頭する古代の神聖な貴重品「朱土」を訪ねる

神戸　和鉄の山郷　押部谷・志染・丹生山・淡河 Walk　　2006.2.22.

神戸の北の端　丹生山を越える国道 428 号の道際で今も古代の貴重品「水銀・水銀朱（辰砂）」の露頭が見られると知って、飛んで行きました。
辰砂を大量に含んだ赤土「朱土」で真っ赤な肌の崖。　自然の中　山中にそのまま存在する「辰砂」を見るのは初めて。 縄文の赤「ベンガラ」に対して弥生の赤といわれる「辰砂」。 土に顔を近づけて見入りました。
この丹生山 walk を中心に古代の韓鍛冶　忍海部一族が治めた和鉄の山郷 Walk をまとめました
「丹生」の地名にはそこが古代神聖な貴重品とされた「水銀・辰砂」を産する地で同時に豊富な鉱物資源を産することを示す。
神戸の市街地の北側を東西に走る六甲山。　その裏側　神戸の北端　丹生山周辺（押部谷・三木市志染・丹生山・淡河）は古代水銀・銅と共に鉄をし、古代の鉄を支配した大和の「葛城氏・韓鍛冶忍海部氏」につながる忍海部一族が治めた和鉄の山故郷。

神戸で「たたら」製鉄遺跡は発見されておらず、あるとすればこの丹生山周辺と思われ、水銀や鉄鉱石の痕跡さがして何度も訪れた地。

神戸の北端の丘陵地は古代和鉄の郷　その中心丹生山の山並みとそこで見た「朱土・辰砂」の露頭

2.　蝦夷の雄「アテルイ」の足跡「清水寺・将軍塚」と永観堂「みかえり阿弥陀仏」を訪ねて

京都　東山陽だまり walk　2006.2.9.

■　風来坊　Country Walk

1.　京都　東山陽だまり walk　2006.2.9.

蝦夷の雄「アテルイ」の足跡「清水寺・将軍塚」と永観堂「みかえり阿弥陀仏」を訪ねて

東北　蝦夷の雄　アテルイの足跡「清水寺・将軍塚」と永観堂「見かえり阿弥陀そま」を訪ねて　京都　東山の陽だまりハイク

京都東山山麓にある永観堂と清水寺から東山に登る京都東山の陽だまり walk を楽しんできました。

東北蝦夷の雄　アテルイの顕彰碑が京都東山山麓の清水寺にあり、そのうえの東山の山上将軍塚にはアテルイの器量を認めた征夷大将軍　坂上田村麻呂が眠るという。是非行きたい場所でした。

また、京都が一望できる将軍塚　平安京造営の桓武天皇はじめ、時の支配者が入洛時に一度は町を見下ろした場所。　自分が京都を丸ごと自分の手中に納めたような感じでした。

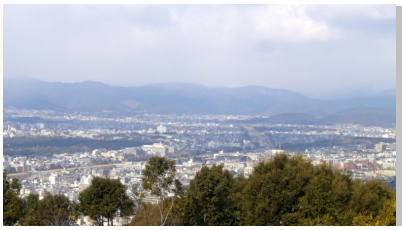
また　東山山麓　永観堂の「見かえり阿弥陀さま」

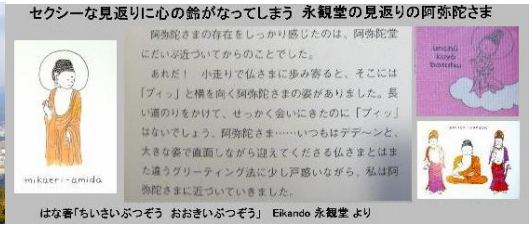
セクシーな見返りにに心の鈴が鳴ってしまう。あたかな阿弥陀さま

--はな著「おおきなぶつぞう　ちいさなぶつぞう」より

本当に感激でした。

久しぶりに訪れた清水寺・永観堂。　良く知っているつもりでしたが、年を経て　また　新しい発見でした。





清水寺　アテルイの顕彰碑　　将軍塚からの京都市街地　展望　　プイ-と横向く阿弥陀さま　はなさんの著より

京都街中の walk も楽しいですが、街中からほんの 1 時間弱で登れる東山。お勧めの Walk です。

ちなみに　京都を取り巻く東山・北山・西山には　それらを巡る京都一周トレイルが整備されていて、町から気軽にどの方面へも気軽に巡れるようになっていました。最も革靴では無理ですが・・・・・・

この記事を和鉄の道　Iron Road　　たたら遺跡探訪にも収録しました

2.　北摂連山の山中に埋まるキリシタンの里「千提寺・音羽」集落と「マリア十五義原義図」展

大阪府茨木市　千提寺　　2006.2.8.

戦国時代　大阪府高槻のキリシタン大名　高山右近の領地であった北摂連山の山中の「千提寺・音羽」集落。そこはいまもひっそりと山に埋まって暮らすキリシタンの里。

昭和 5 年民家の屋根裏からこの集落が代々受け継がれたキリシタンの集落であることを示す「マリア十五原

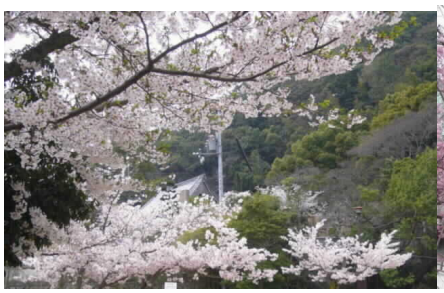
義図」などが発見された。
京大にあった「マリア十五原義図」が修復され　この 2 月京大博物館で公開されたのを機会に訪れられなかったこのキリシタンの里「千提寺・音羽」集落を訪ね　そして「マリア十五原義図」展を見てきました。
その後の弾圧の歴史の中でひっそりと生き抜いてきたことを象徴するような北摂の山中のまたその山かげに隠れた里。歩いてみて初めて判るキリシタンの里でした。
でも　交通の便もよくなり　そこに住む住人にとっては「キリシタンの里」はもう遠い昔なのかもしれない。
奥深い山里ではありますが、明るい裕福な里と感じて帰りました。
　本当に一人　ゆったりと風来坊するには素晴らしいところでした。

マリア十五玄義図と キリシタンの里　茨木市千提寺

あまり良い出来の内容ではありませんが、暇なときにでも眺めてください。
また、ご意見　ご感想ならびに色々な情報など　お知らせください。

2006.3.10.　神戸にて　Mutsu Nakanishi

4.　2006 年　4 月　「IRON ROAD 和鉄の道」 from　Mutsu　Nakanishi



2006.4.12.　神戸須磨寺の桜

まちにまった桜が満開になったと思ったら、あっという間に花散らしの雨
今年は春が随分遅れましたが、今は庭にも春の草花が咲いて　気持ちの良い季節になりました。
4 月　新年度のはじまり　多くの方から　新しい門出の通知を戴きました
我が家でも　早いもので　東京の孫娘がピカピカの 1 年生　本当にはやいものです
おもいきり　我が道を　すすんでもらいたい
ひとのことは　いえるのですが、自分のこととなると・・・・
春になったら　あれもしよう　これもしようと思いながら　なかなか思うようにいかずです
須磨寺の満開の桜を見て、門前で「うの花」食べて、やっと春です

２００６.4.15.　　神戸にて

2006.4.12.　やつと　桜草　そして　まめの花が咲きました　自宅の庭で

ホームページを春先の花でかざろうと思いながら、今年はどうもうまくいきません。
畑一面が菜の花畑がみたい　チューリップも　例年だとそろそろだし・・・・・
春の花を待ちかねて 3.26.「花の島　淡路島」へ出かけました。近くの朝市にも淡路島の花が並ぶ「花の島」
やっぱり　ちょっと早かったのですが、菜の花・チューリップ・三色すみれのお花畑に出会えました。

花の島　淡路島に春の花を訪ねました　2006.3.26.

「たたらを訪ねて・Country Walk」
相変わらず、あちこち話を聞いては　出かけています。
今回は百済から贈られた「七支刀」そしてそれを収めた物部氏の本拠地奈良県天理布留を訪ねました。
製作法がいまだ謎とされている「七支刀」。
その謎解きに迫る復元検討の面白さ。　謎解きにかけた刀鍛冶河内氏の面白さに見入りました。
また、奈良県天理市布留　倭王権の日本統一を支えた専用鍛冶工房　その中心は七支刀を奉る石上神宮。
日本で製鉄が始まる前夜倭王権と朝鮮半島との鉄の交流に思いをはせながら　鉄の郷を歩きました。
また、先月紹介した滋賀県大津市　古代　比叡山造営を支えた鍛冶工房　上仰木製鉄遺跡をまとめました。
棚田が広がる素晴らしい田舎の風景の真っ只中に上仰木製鉄遺跡がありました。
また　比叡と都をつなぐ山道「雲母坂・きらら坂」。最澄・親鸞はじめ幾多の高僧が比叡に登り、そして比叡の荒法師が都へかけおりた古代の道が、その名にみられる「古代の和鉄の道」だったのではないか。。。と思いはじめてました。
相変わらずですが、そんな和鉄を訪ねる Country Walk をホームページに掲載しました。

百済から贈られた古代刀「七支刀」の復元展と古代　倭王権を支えた物部氏の根拠地　古代の鉄の郷「布留」
2007.3.17.

古代　和鉄の国「近江」　　比叡山麓　延暦寺造営を支えた上仰木製鉄遺跡　2006.2.25.

2006.　4月　from Kobe　　思いつくまま

1.　最近の TV から　異常気象　お花見とグローバル　スタンダード

2.　最近の TV から　鉄腕　DASH 村」で　!!　精錬鍛冶を紹介

TV で紹介　「古鉄再生　「沸かし付け」の技術

1.最近の TV から　　異常気象　お花見とグローバル　スタンダード

300 万円で暮らす「下級社会」がひろがっていると TV や新聞がまるで他人事のようにその言葉を気安く口にする。 ほんとにそれでいいのだろうか・・・・

ある TV 番組での最近の討論の一部

家で一番大事な人は外には見えない「奥」様　　海と陸をつなぐ場所は「浦」（裏）

御所の一番大事な場所は「内裏」

「 オープンでない所に大事なものがあり、　表と裏　そして　その奥行きを見なければ

『何でもありの倫理観が底抜けた今の日本』で　どうにもならない　」と。

一方　奥行きのない西欧はどうかというと「表と裏の二者択一。　でも「倫理観」が社会に生きている」と。

外人は日本を不思議に思うと共にそれに心引かれ、日本は外国を手本にコピーを目指す

「どちらがいい　悪い」の問題でなく、両方の「いいとこどり」の口先に惑わされぬよう。

「マジョリテイー・勝ち馬に乗る」事だけを行動の規範では薄ら寒い時代である。西欧の街並みには雨宿りできる軒先がないが、日本にはそれがある。　日本の街並み風景には人や人の営みが不可欠なのに　西洋の風景には人がいらない。 誰もがはいれる軒先　そして外と内をつなぐ奥行きの文化が日本にはある。

それが　伝統・伝承で　変わることのない規範であると。

奥を見ないと日本は判らない。でも、日本人はそれを忘れている・・・・・・・・・・・・　と。

直ぐに自分は何々派があっという間に日本に広まり　口先だけのデイジタル・グローバル。　そして　その価値観が一日でひっくり返る。 これだけ価値観が一日で変わってしまう社会は決してよいとは思えない。

最近の景気回復は著しく労働事情は良くなったという。

しかし、働く人の 1/3 が正社員でなく、不安定な派遣・パート等の非正社員という。本当にビツクリするような数字である。 そして　非正社員も昔のような腰掛けやアルバイト的存在ではなく、家計を支える中心の人達である。 この 10 年の不景気が会社。社会を根底から変えている。これが日本では　企業収益・効率化・グローバルの中身　そして　学校の先生ですら正規が減少して、飯を食えない人が増加していると言う。

これほど　弱者が増えているとは・・・・・・・・。　本当にビツクリするような数字である。

もはや　団塊の世代の話ではない。

「どうにかなる」から　「どうにもならぬ」現実が直ぐ前に来ている。

底なし沼の階層社会にならぬよう　惑わされぬ知恵と感性を養わねば・・・・・

世はデフレが克服され、上昇気流という。

これはディジタル・グローバルスタンダードの名の下に底なし沼の競争を意味するのか・・・・

平成の大合併　それぞれでやっていけない町同士が合併して　どうして　大きくなれば　きめの細かいサー

ビスが向上するのだろう　ひそかな疑問が今や　合併の町で　切捨ての現実が猛烈に進んでいる。
やっぱりなあ・・・・・で済めばよいのですが　　地方に行くとやたらにそれが目につく。
今年　春　TV は「東京は桜満開　お花見　お花見」と　それこそ　今行かなければ・・・・・の風。
でも　そのとき　関西はまだ　花のつぼみ硬し。
そんなまだ桜の咲かない大阪の公園に張り巡らされた青いグランドシート
あたかも東京の姿が、すべてのスタンダードとして伝え、それに
乗り遅れまいとする姿

今　桜満開の関西　でも　TV は　もう　さくら花見のかげもなし・・・・・
TV に踊らされて　青いグランドシートを張った人の群れ
寒さに震えて　花のない花見をしたのだろうか・・・・
グローバルって　こんなものかも　知れないなあ・・・・と。

また、東京と大阪の差をこれほど毎日聞いたことなし。
内では東京がおかしいとおもいながらも、　ひょっとして　関西が・・・・
やっぱり　異常気象　　景気が良くなった・・・・と勝手に思い込んでも　自分とこには　こないかも・・・・
今年はそんな春をいくつか　感じました。

さくら満開の須磨で　　2006.4.12.　Mutsu Nakanishi

2. 最近の TV から TV で紹介　「古鉄再生　「沸かし付け」の技術

「鉄腕　DASH 村」で !!　精錬鍛冶を紹介

最近　たたら製鉄など古来の和鉄製鉄や刀・釘などの鍛冶の技術を紹介する TV 番組や新聞報道を眼にすることが多い。
そんな中で、いつも言われるのが、
「　たたら製鉄や古来の製造法で造られた和鉄は現在の方法では作れない。
　また古来の和鉄でないと直ぐに錆びがでて　千年も持たない。
　今も刀製作には和鉄の玉鋼が刀匠たちで分けられて使われ、
　古寺の解体修理には和鉄で造った釘が使われる。
　さもなくば　古刀や使用されていた昔の釘を再度再生して使う　」と。
確かに　そうだと理解しているのですが、一般の報道や TV では次の疑問には答えてくれない。想像はするのですが、良くわからない。

「なぜ　現在の鋼は千のですが年もたず、さびるのか」
「古い釘や刀を再生するって　どうやって・・」

■　なぜ　現代の鋼は錆びて　和鉄は錆びずに千年持つのか・・・・

「和鉄は純度がいいからだ」と言われるが、清浄性だけを言うなら　現在の鋼の方がづっと清浄なのである。
ここでいう「純度」とは主に「金属成分」の混ざり物を言う。
現在の鋼には鋼を清浄にするため、非金属の不純物を除去するため、Si や Mn などの異種金属が必ずはいって鋼を高清浄にして、大量生産が可能となった。しかし、鉄の中に他の金属成分が入ると水と反応して表面が非常に錆びやすくなる。 特に Mn がいちじるしい錆び発生を助長する。
（学問的には　表面で局部酸素濃淡電池を作り、著しく水酸化鉄の赤錆を発生すると理解している。）
したがって、現在の高温溶融の製綱法では脱酸・脱硫の金属添加が必須であり、ステンレスなどの赤錆び防

止できる合金成分を添加しないと錆びはとめられない。

予談であるが、日本の刃物・刀は軟らかい地鉄と刃の部分を形成するかさね接合することで刃の切れ味と本身の靭性が両立されるが、 西欧では硬さと仁政の在るステンレスの合金鉄一枚で作られる。

どちらも錆びに強いことが　長く別々の発展を遂げた理由の一つではないかとも思っている。

■　では　古い釘や古刀をどうやって、再生するのだろうか・・・・・・

「沸かし付け」と呼ばれるまさに古代からの精錬鍛冶技術の延長上の技術で再生される。

この技術を　TV 番組「鉄腕　Dash 村」では「クワ・ナタを自前で製作する」として古鉄素材（古釘）の再生による「地鉄」「鋼」作りを炉の作成から精錬・鍛冶まで　そして　その後のクワ・ナタ作りまで実に丹念に紹介してくれた。

再生とは「単に刀や釘など古鉄材を加熱鍛造して　素材を引っ付けて　再生するのだと思っていましたが、まさに古来の「精錬鍛冶」の技術の詳細。びつくりして　かじりついてみました。

「沸かし付け」の言葉は聴いたことがありましたが、丁寧に 1 時間たっぷり実践が行われました。

精錬・脱炭・加炭を　鞴を使って　温度と炎の状態を調整して　素材を半溶融の塊状にして鍛造で一つの素材にする。

半溶融の沸かし付け　　やつぱり　種になる塊が奥に詰められ、これに半溶融の鉄がすいつけられる

実に丹念に温度・雰囲気コントロールの実践が描かれていました。

鍛冶技術をこんなに丁寧にリアルタイムの実践で解説つきで見たのは初めて。

古代　日本で鉄生産が始まる前　専用鍛冶工房として鉄器の大量生産を担った精錬鍛冶工房がどんな技術であったのか　　その時　朝鮮半島から移入された素材は何か

これらに非常に興味をいだいていた時だったので　よけいに興味　　TV に 1 時間釘付けでした。

ちょっとみでは判らぬ実践技術　物まねでは出来ない技術

鉄が伝来して国内生産まで約 1000 年かかった技術の一つとつくづく思いました。

そんな技術　「DASH 村」のホームページ開けると　詳細に記録が掲載されていました。

残念ながら　今　掲載されているのは　抜粋になっていますが・・・・

ご興味のある人　ぜひ。

日テレ　DASH 村　　「鍛冶」　　3 月 19 日放送

http://www.ntv.co.jp/dash/village/

ものづくりの技術　伝承せねばならぬ質の技術とはなにか　　そんなことが垣間見られるページです。

掲載記事　概　要　　【　2006年4月　new page　】

■　和鉄の道　Iron Road　　たたら遺跡探訪

1. 石上神宮の国宝「七支刀」の復元展にあわせて　　物部氏の本拠地　布留を訪ねる

古代　倭王権の専用鍛冶工房・兵器庫　　奈良県天理市　布留　　2006. 3. 17.

仕事を離れ、材料の話を聞くことが少なくなって、ちょっとさびしく感じている時に　橿原考古学博物館で「古墳時代の国宝「七支刀」を鋳造で復元展示。古代刀の製作法を探る」の報。

「刀鍛冶」の言葉のように朝鮮半島も日本も古代から鍛造で作られていると思っていましたのでビックリ。

また　この刀を復元製作をした河内刀匠の眼。　刀が発する「ものづくり」の眼から見た疑問のたしかさ　面白さについつい引き込まれてしまいました。

ちょっと見では見過ごしてしまうプロの眼。そこに思いもよらぬ眼のつけどころ・技術のあること　本当にビツクリでした。

本当の所はまだ良くわからないと思いましたが、 鋳物の熱処理・可鍛鋳鉄　そして刀の折れ口の破面と表面脱炭　久しぶりに鋼・鋳鉄の熱処理や鍛造プロセスの中身を実物を見ながら、解析のおもしろさダブらせながら行ったり来たり、本当に面白かったです。

やっぱり　プロの眼・技術の質そして　それを見抜く感性・判断　　頭だけでなしに「ものづくり」のトレーニングの必要性感じています。

また、文献では見ていましたが、鋳物の熱処理技術が可鍛鋳鉄まで遡れる可能性など思いもよらぬことでした。

百済から贈られた古代刀「七支刀」の復元展と古代　倭王権を支えた物部氏の根拠地　古代の鉄の郷「布留」　　2007. 3. 17.

2.　　近江の鉄の郷　大津市仰木　　比叡山延暦寺造営を支えた生産工房　上仰木製鉄遺跡

帰路は比叡と京 都を結ぶ　「古代の鉄の道???　きらら坂・雲母坂」ハイク 2006. 2. 25.

先月紹介した滋賀県大津市　古代　比叡山造営を支えた鍛冶工房　上仰木製鉄遺跡をまとめました。

琵琶湖を見下ろす比叡山の山裾　棚田の美しい丘陵地。こんな身近に日本の田舎の原風景。　素晴らしい場所に製鉄遺跡がありました。

また　この Walk で、

「最澄・親鸞はじめ幾多の高僧が比叡に登り、そして比叡の荒法師が都へかけおりた比叡と都をつなぐ山道「雲母坂・きらら坂」が名にみられる古代の和鉄の道だったのではないか。。。」

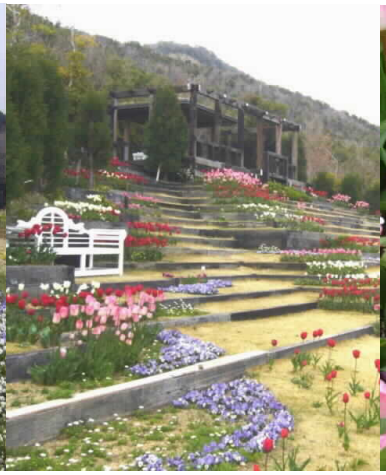
と思いはじめました。

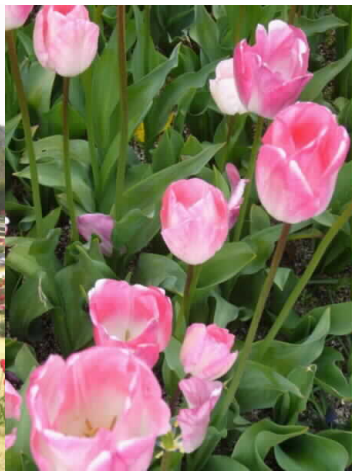
琵琶湖西岸の花崗岩地帯で唯一　製鉄遺跡の話がなかった空白地　比叡山で製鉄遺跡がみつかり、これから何が出てくるか楽しみです。

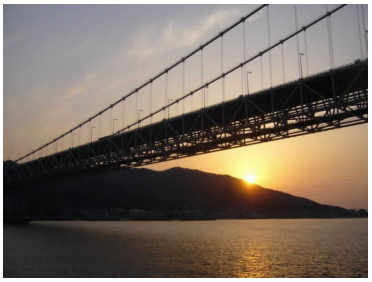
■　風来坊　Country Walk

1.　　2006 年　春　　花の淡路島を訪ねて

春の花　菜の花・チューリップ・三色スミレ　　2006. 3. 26







花の島　淡路島に春の花を訪ねました　2006. 3. 26.

5.　2006年　5月　「IRON ROAD 和鉄の道」　from　Mutsu　Nakanishi

淡い緑につつまれた神戸　高取山　　2006.5.10.

新緑の素晴らしい季節
野に山に　Country Walk を楽しむ絶好の季節になりました。
今月は記事を更新できませんでしたが、
周囲の山々の淡い緑と庭先の草花がきれいに咲きましたので、
それらの写真をカバーページとして更新しました。

2006.5.10.　神戸　須磨

兵庫県 但馬　出石・豊岡　Country Walk　　2006.5.6.
５月ゴールデン　ウイークの始まりと共に素晴らしい新緑の季節になりました
周囲の山々は淡い緑につつまれ、の中に入り込むには　庭先では今を盛りに色とりどりの草花
戸外に出かけるには　絶好の季節になりました　　連休はいかがでしたか

この連休に兵庫県但馬「出石・豊岡」　を訪ねました。「天日槍」伝承の和鉄の郷　　そして　唯一残されたコウノトリが舞う郷である。「自然放鳥された「コウノトリ」　新緑の里山や田圃を舞っているだろうか」

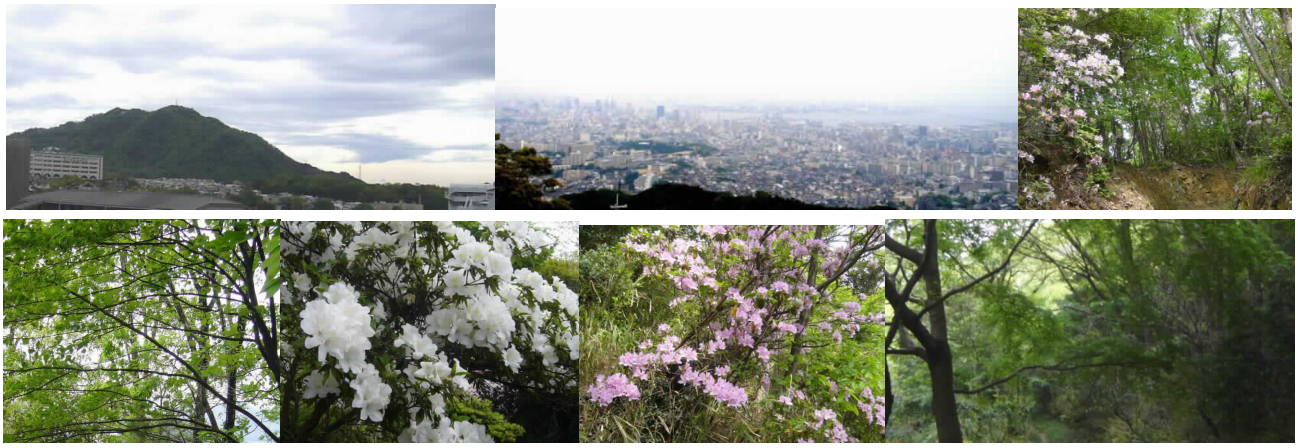
また昨年出石で眼にした４世紀の古墳に副葬されていた「砂鉄」。
「砂鉄が鉄原料として認識され、わが国で製鉄が始まったのは　何時なのか・・・ 」その鍵を解く「砂鉄」
「伝承どおり、但馬では４世紀にもう製鉄技術があったのではないか・・」 そんな思いをこめ、是非とも見たかった入佐山古墳。 新緑の山々に囲まれた和鉄の郷　出石で　Country Walk を楽しみました。

空を舞うコウノトリの写真取りたいのですが、今回はかなわず。
また　砂鉄が副葬されていた入佐山古墳は観光客でごった返す城下町「出石」の市街地に隣接する東の山裾街を見下ろす丘陵の尾根の上にひっそりと若葉につつまれていました。
また　この但馬　出石と丹後国　日本でも最も古い製鉄遺跡　遠所遺跡とは山を隔ててはいるが、すぐの近さ　また　同じ鉄の伝承を持つ大江山もすぐ東で在る。
コウノトリが運ぶ古き和鉄の道　一日緑いっぱいの Country Walk を楽しみました。

「天日槍」伝承の和鉄の郷　　出石　　2006.5.6.

新緑の５月　コウノトリが舞う里　　兵庫県豊岡　　2006.5.6.

6.　2006年　6月「IRON ROAD 和鉄の道」from　Mutsu　Nakanishi



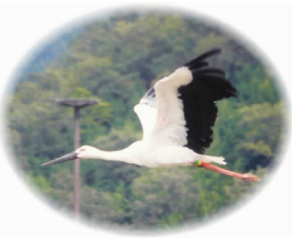
新緑につつまれた高取山

2006. 5. 25.　神戸　須磨

あっという間に春が通り過ぎて、ぐずついた天候がつづき、もう梅雨にこのまま入るのでしょうか
６月　野山では淡い緑が素晴らしい季節　庭では春の草花からバラの美しい庭にかわりました。
先日　１０年ぶりの中学の同窓会　「誰が来ているだろうか・・・　知らん人ばかりなら　どうしょう」
「彼にあいたいなあ・・・・」などと不安半分　期待半分で出かけました。
会場にはいると１００名を越える仲間に一辺に昔に帰って、あっちのテーブル　こっちのテーブルと話に花を咲かせました。 顔を見るまでもうすっかり忘れていた仲間　話している間にちょっとづつ思い出す。
もう　全く自分では記憶のない話の中心に自分が居たことなどまるで浦島太郎。記憶のスイッチを時々入れないとあかんなあ・・・・・と。
　同じ街を歩いても　もう見知らぬ街になりつつあった我がふるさとで、　この日ばかりは　結局一日　遅くまで　あっちで引っかかり、こっちでひっかかりで 久しぶりに　新たな仲間の存在を感じました。
　６月はじめ　大学の仲間の九州同窓会。また　新しい話を聞けると楽しみにしている。
ばたばたしている間に６月　連休明けたら活動せねば・・・と思いながら、不順な天候にかこつけて　神戸で沈でした。

うっとうしい梅雨　まじか　健康にご留意を・・・・・・・・・・・・・・
いつもながらのホームページ　何か新しいこと始めねば・・・・・ともおもうのですが、相変わらずです。

「但馬　出石の４世紀の古墳出土の『砂鉄』」について　とりまとめました。
昨年　訪れて気になっていた「但馬　出石の４世紀の古墳出土の『砂鉄』」
「磁石もない古代に　そもそも　砂鉄は　何時頃　鉄と認識されたのか・・・」
ひょっとして　「砂鉄から日本の製鉄開始の謎」に迫れるかもしれない・・・・・とこの５月　調べたり、遺跡に出かけたり。



■　鉄と鋼

今頃何をいうのか・・・・といわれそうですが、鉄と鋼は違う。
それぞれの製造プロセスを経ないとどちらもできない。
「むかしから　鉄つくっているのだから　そんなもん　溶鉱炉にいれて　コークスいれて　加熱すれば、簡単に出来る」と思うでしょうが、違うのです。 それが「２０００年のものづくりの技」　簡単にはいかないのです。
また　物作りの質の話です。
「たたら」製鉄ではこのことが理解されず、その理解に１０００年かかったのではないか
古代の製鉄の伝承と製鉄遺跡との乖離もこれが原因かと・・・・
（たたら製鉄では　（銑）鉄と鋼の両方を１プロセスで作るプロセス　ここに秘技といわれる物づくりの技が詰まっている。）

また、巷では　正社員が減って　非社員が増え、　それに比例して社会格差が急激に広がって
また　弱いものいじめが社会全体に広がっている。
先日こんな　言葉を知りました。
「今　良い製品を作ることが　目的となっているが、本当は　良い製品をつくるのは条件であり、
目的は良い環境の中で働ける社会を作ることである。
あまりにも　この理解ミスが多く　国際競争力　効率　が一人歩きしている。」と・・・・・
「うう～ん」とうなっています。

以下、神戸に居て　「思いつくまま気の向くまま」２題です

2005.5.30.　　Mutsu Nakanishi

2006.6月　from Kobe　　思いつくまま

【1】　アフリカ砂漠では　雪がそのまま水にならずに雲になる????

梅雨時になると気になる湿度　　2006.5.19.

5月連休の快晴続きの天候がうそのようにぐずついた天気が続いている。 いよいよ　梅雨の到来か・・・・・
それでいて、「風ひかる・・・」「風かおる」そのままに野山の緑は雨に輝いて　素晴らしい。
前にも書いたかもしれませんが、　毎年このぐずついた天候になると溶接屋の私には「溶接材料　欠陥出していないだろうか・・・」と湿気が気になる。
　先日　TV を見ていたら、アフリカの砂漠では　降った雪が溶けて水にならず、そのまま蒸発して雲になるという。湿気が少ないためである。
　雪を食べると言ったって限度があり、動植物の水分補給は難しく、時には年に１回の雨にかけて、１年以上もじっと動かず待つという。植物だけでなく、動物がそんな進化の機構を持っているという。
信じられないことであるが、アフリカではそうだと言う。
　そういえば　昔　モスクワによく行っていた頃　－20℃以下になると雪は砂と一緒で、スリップなんてなし。ぼんぼん　車を飛ばして行く姿に「雪でなくて　砂だ」と。
冷凍庫の中は砂漠ではありませんが、フリーズドライも・・・・・ 冷凍食品をラップで被っておかないとどんどん水分抜けて、干からびてしまう。

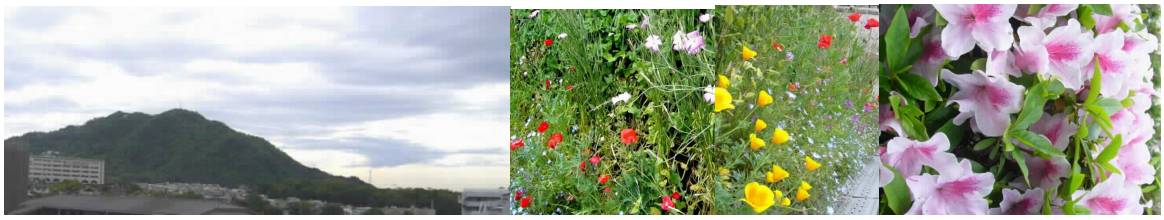
梅雨時「湿度　何%か」と溶接屋にはいつも気になる湿度。

いったい　どの程度から　水にならずに　そのまま大空に蒸発してしまうのだろうか・・・・
溶接棒の吸湿の経験からすると湿度 60%が一つのポイント。
湿度がこれ以下だと溶接棒の吸湿がほとんどないと思っている。
今　関西で話題の高松塚・キトラ古墳の壁画の汚染カビも湿度・温度と連動。
今回公開されたキトラ古墳「白虎」の図も「湿度 60%±2～3%温度 20－25℃」の範囲で厳しく管理して公開しているという。 さもないと壁画の水気が抜けて壁画は崩壊するし、逆だとカビが壁画を汚染する。ぎりぎりのところでの公開だと新聞が伝えている。
いろんな活動がどうも　湿度 50～60%　　を境にして生じ、自然界も技術もこの克服に力を尽くしている。
こんなところにも技術がある。
日本にいると雪も霧も雨もみな水となって大地を潤すものと思っていましたが、地球にはすごい所がある。
ついつい　忘れがちであるが、「湿気」の有り難味と凄さ
でも　やっぱり　心配な溶接棒の湿気。今年も　問題なく　乗り切れることを願っている。

2006.5.19.　ぐづついた空　神戸で
Mutsu Nakanishi

【2】ティーバッグ　タイプ　の　コーヒ

「田中講平さんの萩」のカップで　午後のコーヒータイム　　2006.5,15



家にいる機会が多くなって、一番困るのがコーヒー。コーピの味というより、プーンとただよう香りが好き。
勤めているときには 100 円硬貨さえあれば直ぐに香り漂うコーヒーが飲めたのですが、家ではそういうわけに行きません。
「コーヒー豆を挽いて　ドリップして・・・」というところまで行かなくても、ドリップパックに入れられたコーピをカップの上に広げ、上から数回に分けてお湯を注ぎながらコップが一杯になるのを待つ。
お茶代わりに何度も飲むとなると実にめんどうで、待ち遠しく、ドリップ　バックの置く所も用意しておかないとテーブルが汚くなる。
紅茶やお茶のテーバックのようにお湯を注ぐだけで香り高いコーヒーが飲めないものか・・と。

数年前　東京虎ノ門のコクテル堂が唯一コーヒーバッグを売っていて、随分重宝しました。

神戸に帰って　百貨店の試飲コーナーやコーヒー専門店さがしたのですが、よう見つけなかった。
最近　家内が近所のスーパーで UCC「ディップ　イン」というコーヒーバッグを探してきてくれ、好きな時間に好きに珈琲が飲めるようになりました。
味もそこそこ　なんと言っても　好きな時に　自分でコーピの香りが手軽に味わえる。
庭の花を見ながら　好きなコーヒーカップで　好きな間に　午後のコーヒタイム

ずぼらなコーピー好きにはもってこい。　お勧めです。

「田中講平さんの萩」のカップで　午後のコーヒータイム
庭の花をながめながら　コーヒーを飲んでいて
2006.5.15.　神戸にて　　Mutsu　Nakanishi

「５月　ホームページ更新しなかったので、６月　山口・九州に出かける前に更新を」と脅迫観念にとらわれながら、やっと　更新の便りを作っています。
昨年　訪れて気になっていた「但馬　出石の４世紀の古墳出土の『砂鉄』」
「磁石もない古代に　そもそも　砂鉄は　何時頃　鉄と認識されたのか・・・」
ひょっとして　「砂鉄から日本の製鉄開始の謎」に迫れるかもしれない・・・・・と調べたり、遺跡に出かけたり。 近代化したとはいえ、1500 年近くの長きにわたりおいそれと変わらず続く製鉄のプロセス。しかもその前に　鉄が伝来して製鉄プロセスが理解され、製鉄が始まるまで約１０００年。
何がキー技術だったのか　古代鉄の謎　　それが「砂鉄」で解けるのでは・・・・・と。 今頃何をいうのか・・・・といわれそうですが、鉄と鋼は違う。　それぞれの製造プロセスを経ないとどちらも作りえない。
どうも　日本の「たたら」製鉄ではこのことが理解されず、その理解に１０００年かかったのではないか　古代の製鉄の伝承と製鉄遺跡との乖離もこれが原因かと・・・・
「たたら製鉄　千年の秘技」といわれる中身がどうもこれのように思う。
「現代にも通ずる物作りの技」「人が介さない限り　伝えられぬ質の技」鉄の技術のすごさです。
「古代　鉄の謎」が解けたわけではありませんが、「但馬の砂鉄」を調べていておぼろげながら　「謎の周囲に来ている」と思っています。
まだ、不完全ですが、そんな但馬　出石の古墳から出た「砂鉄」について　まとめました。

掲載記事　概　要　　【　2006 年 6 月　new　page　】

■　和鉄の道　Iron Road　　たたら遺跡探訪

1.　コウノトリが大陸と日本を結ぶ　古代　和鉄の道　　「古代　和鉄の郷　但馬　出石」

兵庫県 但馬　出石・豊岡　Country Walk　2006.5.6.

昨年　訪れて気になっていた「但馬　出石の４世紀の古墳出土の『砂鉄』」
「磁石もない古代に　そもそも　砂鉄は　何時頃　鉄と認識されたのか・・・」
ひょっとして　「砂鉄から日本の製鉄開始の謎」に迫れるかもしれない・・・・と調べたり、遺跡に出かけたり。

近代化したとはいえ、1500 年近くの長きにおいそれと変わらず続く製鉄のプロセス。
しかもその前にすでに鉄器が伝来しており、製鉄プロセスが理解され、 製鉄が始まるまで約１０００年。
何がキー技術だったのか　古代鉄の謎　　それが「砂鉄」で解けるのでは・・・・・と。
まだ、不完全ですが、そんな但馬　出石の古墳から出た「砂鉄」について　まとめました。

今頃何をいうのか・・・・といわれそうですが、鉄と鋼は違う。
それぞれの製造プロセスを経ないとどちらも作りえない。
どうも　日本の「たたら」製鉄ではこのことが理解されず、
その理解に１０００年かかったのではないか・・・・・
古代の製鉄の伝承と製鉄遺跡との乖離もこれが原因で、「たたら製鉄　千年の秘技」といわれる中身がどうもこれのように思う。
「現代にも通じる物作りの技」「人が介さない限り　伝えられぬ質の技」鉄の技術のすごさです。
「古代　鉄の謎」が解けたわけではありませんが、「但馬の砂鉄」を調べていておぼろげながら　「謎の周囲に来ている」と思っています。

7.　2006 年　7 月　「IRON ROAD 和鉄の道」　from　Mutsu　Nakanishi

庭のアジサイがこくこくと花の色を変化させ　田圃では水がはられ、それに周りの自然が映えて　素晴らしい田園風景をつくっています 。梅雨の落ち着いた雰囲気の中　この時期しか見られぬ景色でした。
でも　もう　まもなく　梅雨もあけそう　真っ青な空が待ち遠しいこの頃です。

自宅の庭に咲くアジサイ　　日に日に色を変えて　梅雨明け近しです　　2006. 6. 25.

備讃瀬戸と大西町妙見山古墳から見た瀬戸内海を望む
2006. 7. 3.

九州大分　臼杵石仏の郷
2006. 6. 4.

山口県　吉敷の郷　& 油谷半島の棚田　2006.6.2.

7月になって　梅雨の蒸し暑い日々が続いていますが、もう　まもなく梅雨明け。
待ち遠しい日々が続いていますが、いかがおすごしでしょうか
私の方は相変わらずですが、だんだん付き合いの範囲が狭くなって、声がかかるとあちこち　ほいほいとでかけています。 また、和鉄の道も今興味は古代の西日本　製鉄技術の伝来と大和をダブらせて楽しんでいます。
　梅雨を心配していましたが、6月の初め九州で大学仲間の同窓会があって、それに併せて山口・美祢にも行ってきました。 それも九州・山口に出かけていた間　週間予報とは裏腹にばっちりと晴天続き　すっかり楽しんで帰ってきました。
九州同窓会は小倉の仲間が万事計画してくれた1泊2日（小倉での前夜祭いれると2泊3日）の九州バスツアー。
何度もあい　良く知っているつもりでも　バスで一日中行動を共にするなど　学生時代の修学旅行・・・・
老いの中でのあたらしい活力を貰らいました
また　　久しぶりに訪れた山口吉敷の陶芸家　田中さんの素朴な萩の味わいとは対照的な澄んだ水に浮かびあがる自然を思わせる新作の磁器が加わり、　その透明感のある色と線の素晴らしさにせせらぎをほとばしる流れを感じました。
6月25日に「発掘された日本列島2006」（文化庁）が発行され、最新の考古速報が掲載されるのですが、昨年四国で初めて古代の製鉄炉発見のニュースが載っていて 7月のトツプに四国今治へ。
世は高速道路の時代　四国も関西からは十分日帰り圏です。
　この本は毎年一冊展覧会とセツトででるのですが、石器時代から近代まで、日本列島で何が起こっていたかを写真と出土品　簡単な開設で教えてくれる。自分の知らない時代・場所また　自分のいったことのあるところがクローズアップ。 実に楽しい遺跡散歩です。　Country walk の共に・・・・
今東京江戸博物館で展示会が開催されています。

7月のホームページ更新では６月トツプに出かけた九州・山口の　Country　Walk など下記の記事をまとめました。
相変わらずですが、元気な証拠と　暇な折にでも見てください。
まもなく　梅雨明け　待ち遠しい限り
健康にご留意されて　今年の夏を乗り切羅レますように

2006.7.15.　　Mutsu Nakanishi

梅雨晴れの６月　田中講平さんの陶房「葉月」ギャラリー「HAZUKI」.

● 田中講平さんのホームページ　に素晴らしい「萩」と「磁器」作品があります

http://www.k2.dion.ne.jp/~hazuki/

掲載記事　概　要　　【　2006 年 7 月　new　page　】

■　和鉄の道　製鉄遺跡探訪

1.　九州の旅　アルバム　　九州　古代の豊の国から阿蘇へ　　2006.　6.4.-6.5.

古代鉄のルーツにつながる鉄の国「豊（豊前・豊後）」臼杵石仏を作らせたのは炭焼き長者 ???

九州の仲間が準備万端整えてくれ、小倉から臼杵・湯布院・阿蘇を訪ねる 1 泊 2 日のバスツアー。　　学生気分に帰っての修学旅行でした。 古き石仏を訪ね　湯布院の湯と宴会　そしてやまなみハイウエイを走って阿蘇の火口へのハイキング。 みんなとしゃべったり　飲んだりする事に気がいっぱいで　全く頭にも浮かばなかったのですが、 訪れたところは古代の鉄の国　豊（豊前・豊後）の国。　　訪れた宇佐神宮　臼杵大仏がそれぞれ古代日本への鉄の伝来とかかわりを持っている。

古代鉄のルーツにつながる鉄の国「豊（豊前・豊後）」

臼杵石仏を作らせたのは炭焼き長者 ???　　行くまで全く知りませんでした。

2.　「出羽鋼」の郷　島根県　奥石見　瑞穂町市木　walk　　2006.6.6.

奥石見　瑞穂町　古墳時代 6 世紀の今佐屋山製鉄遺跡を訪ねて

中国山地の奥の奥に古墳時代　日本で製鉄が始まった頃の製鉄炉がみつかった今佐屋山製鉄遺跡があり、山深い谷間に 100 を越える「たたら」の山が点々と続く奥石見の製鉄地帯。江戸時代には　日本刀の素材として全国的に珍重された奥石見「出羽鋼」の大生産地でもある。

昔　「お産」や「女性」を嫉妬し嫌う「たたら」の守り神「金屋子神」のため、たたら衆は里に降りて産屋を建てて赤子を産む。そんなたたら衆を受け入れてくれるやさしい集落があり、「生家・うぶか」と呼ばれていました。

■　風来坊　Country Walk

1.　6 月の山口に広がる田園風景

山口吉敷の里と油谷半島の棚田 2006.6.2.

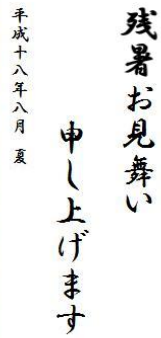
田に水がはいって、周りの自然がそのままそこに映しこまれて今の時節しか見られない素晴らしい田園風景

■　四季折々　思いつくまま　From Kobe

1.　生産が始まるまで 500 年を越えるたたら製鉄の謎

ここに日本の物づくりの原点を見る

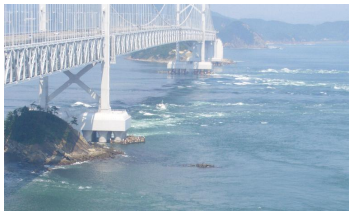
8.　2006年　8月　「IRON ROAD 和鉄の道」　from　Mutsu　Nakanishi



暑い暑い夏です
早く夏がこないかと　待ち遠しかったのですが、　集中豪雨と猛暑　もう亜熱帯。
気候も世相ももう常識が通用しない時代に戸惑うばかりですが、いかがてしょうか・・・
東京から娘一家が帰ってきて、孫たちとあっちへいったり、こっちへ行ったり　うれしい夏でした。
18日に「また　来るね・・・・・」と帰ってゆきました。
梅雨があがったら「ひまわりの夏」　ホームページ　更新しようと思っていたのですが、
なんとはなしにばたばたしている間に　もう　ひまわりも終わり。
今　ミンミンとせわしく鳴くアブラゼミが夏いっぱいをつげています。
夏があっという間に過ぎようとしています。
そんな梅雨時から夏にかけての風来坊　をまとめました。
まもなく　猛暑も峠を越し、青空にさわやかな風が吹く季節。
健康にご留意されて　今年の夏を乗りきられますよう

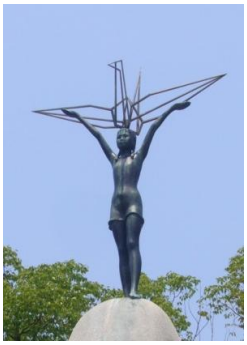
2006.8.20.　Mutsu Nakanishi

明石海峡・明石大橋



鳴門海峡・大鳴門大橋

紀淡海峡・住金和歌山遠望



戦後６１年　戦争を体験もせず、聞くこともなくアニメ・ゲームでしか知らない世代が、歯止めなしに突っ走るのが自由だと勘違いしている。　今ほど直接戦争が自分に身近になった時代なし　「不戦」「非核」は本当に戦争抑止の力にならないのか・・・・・・・・
今一度「不戦」「非核」の意思表示がしたくて　被爆６１年を明日に迎える８月５日広島で開催された広島平和祈祷・平和行進の集まりに参加。
「ヌチドゥタカラ　・命ドゥ宝」沖縄の「かけがえのない命　大切ににしょうという」という古い言葉を知りました。　「報復」の道しかない「武力」に解決なし
「かけがえのない命」　この輪が世代間を越えて広がってゆくことしか　平和への道なし
そんな事を感じで帰ってきました。

2006.8.5.　夕　広島平和祈祷・平和行進に参加して
Mutsu Nakanishi

ホームページ更新ですが、８月　被爆６１年を迎える広島に行って感じたことなどまとめました。
また、「四国今治　瀬戸内海を見渡す要衝の地で　古代の製鉄遺跡が発見された」
　北九州から大和への古代の鉄の道　見つからないのが不思議。
古代　製鉄技術伝来の様子が解けるかも知れないと胸わくわくで行ってきました。
　今治で見下ろした瀬戸内海に惹かれたわけではないのですが、瀬戸内海を見下ろす高台にある弥生時代の高地性集落を教えてもらって、その道筋と鉄技術の伝来が同じ道のような気がして、まだ　手始めですが、兵庫周辺をあちこち歩いてきました。 弥生の昔から　高台から敵の動きを監視して仲間に知らせていた村があった。　その中心手段のひとつは「狼煙」。 本当にそんなによく見えたのだろうか・・・・・・と。
　また、弥生の戦が大陸からもたらされた鉄の争奪にかかわるなら　必ずや高地性集落にもその痕跡があるだろう・・・・と
高地性弥生集落の謎　そして　和鉄技術の伝来との関係　大和の国づくりへのアプローチ　などを頭に描いて少しづつですが、まとめてみたいと思っています。
「あれもしらべよう　　こうもしたい」と思っている間に時間が経ってしまって　夏のまっさかりに・・・・・
孫たちも帰って　やっと　おちついて　　今度は早くせねば　せっかくのひまわりの夏も終わりととあせりながらの更新作業です 相変わらずですが、元気な証拠と　暇な折にでも見てください。
また、色々な情報・ご意見などおきかせください

2006.8月　from Kobe　　思いつくまま

■　鉄道遺産　SL山口号が京都の梅小路で解体修理

TVで山口線を走っている鉄道遺産SL山口号が京都の梅小路で解体修理される記録をみました。
また　「布留石上神宮の七支刀」の古代の製作方法の謎を解き明かす記録もやっていました。
いずれも　ものづくりの技が一般に言われる大発明や大発見でのみ構成されていないことを克明に謎解きした映像記録で、接合・溶接屋の私には　とりわけ　SLがボイラーや機械部品に解体され、長年にわたる使用で入った亀裂や磨耗部の補修に目を輝かせていました。 この補修・修理の技は新品を作るよりも難しい技。
新しいものと古いもののマッチングの難しさ　これほど難しいものはない。新しいものを作る技術を含め、ものづくりの技が集約されているといっても過言でない。
歪・われ・亀裂　いらえばいらうほどおかしくなり、図面どおりには行かない。
「そんなもん　ちょっ　ちょっと　やっとけばいけるやないか・・・」と一般には思われ、スポットライトを浴びることもないのですが、高松塚古墳の保存修復に見られるごとく、この技がきっちり受け継がれているのとないのとでは大違い。マスコミが中身を理解せず、「神業が　現在の技術ではできないものを作り上げた」と騒ぐことになる。 悪い部分を直すというだけでなく　遺産を受け継ぎ、歴史・伝統ををつないでゆく。　そんなところから　新しいものが生まれ、再生する。 技術屋魂の底に常にあるものかもしれません。
技というと何か科学的でないように見えますが、そこには基本技術も論理も解析もあり、マスコミが騒ぐ神業ではない。 問題はそれを含めて　技術なのですが、切り捨ててしまうかどうか・・・・です。
　久しぶりに接合の技　心地よく見ました。 しっかり受け継がれる環境がないと品質も価格もええかげんなものになりかねない。 最近　物づくりだけではなく、社会全体に　そんな意識を時代遅れとし、軽んじてきた付けが回ってきている。 昨今の日本経営のあぶなかしさ　すっきりと明るい未来に希望を描けないのも　そんなところに原因があるのかも・・・・・・・・・
日本では　やっと経済が回復してきて、穏やかな世相になるかと思いきや　情け容赦のない弱肉強食の世相のボロがあちこちで噴出して・・・・ またかという大企業の横暴な品質問題に会社経営。目的と手段をたくみに入れ替える理念のなさに情けなくなってしまう「たたけるものは　たたけ」「とれるものは　とれるだけ　とれ」「しょせん　〇〇　われわれとはちがう・・・・」等々。
これはまさに悪代官のいいぐさではないか　　政治の貧困か　国際競争とは　こんなものなのか・・・・・・・
広島に行っていて、ふっと感じたのですが、視点を今だけに取らず、もっとスパンの長い世代間を越える尺度を

持てば・・・・・と 年寄りのたわごとかも知れません。

掲載記事　概　要　　【　2006 年 8 月　new　page　】

■　和鉄の 道　Iron Road　　たたら遺跡探訪

1.　四国で初めて　古代の製鉄遺跡が見つかった

今治市　高橋佐夜ノ谷（２）製鉄遺跡をたずねて　2006. 7. . 3.

「四国今治　瀬戸内海を見渡す要衝の地で　古代の製鉄遺跡が発見」　古代製鉄技術の謎が解けるかもしれぬと胸わくわくで行ってきました。 北九州から大和への古代の鉄の道　製鉄遺跡のないのが不思議でした。

遺跡はすでに道路の下になっていましたが　瀬戸内海に飛び出した半島の丘陵地の谷筋

また、この地にははるか瀬戸内を見下ろす丘陵地の上に卑弥呼の時代につながる初期前方後円墳があり、大和との鉄を通じての交流にイメージ膨らませながら歩いてきました

今治市　高橋佐夜ノ谷(2)製鉄遺跡

古墳時代　初期前方後円墳妙見山１号古墳とそこから見た大西町から瀬戸内遠望

■　風来坊　Country Walk

1.「ひとつたりとも　おろそかにできない命」　不戦の道を探って　2006. 8. 5.

広島平和の祈り・平和行進 2006 に参加

被爆６１年を迎える広島の平和の祈り・平和行進に参加しました　2006. 8. 6. 夕

2.　弥生の高地性集落【1】

芦屋市「会下山遺跡」からロックガーデンへ　　ハイキング　2006. 7. 4.

兵庫県芦屋市のロックガーデンへのハイキングコースのすぐそばに弥生の高地性集落会下山遺跡がある。

発掘調査されて６０年のシンポがあると聞いて、シンポはよう出かけませんでしたが、昔を思い出して、遺跡からロツクガーデンへのハイキングを楽しみました。

3.　2006 年夏　瀬戸内海　遠望

山や海峡から瀬戸内海はどこまでみとおせるのか・・・・・　　2006.8.18.

兵庫周辺の高地性集落を少し歩いて海の道　瀬戸内海を実感しました

瀬戸内海各所から見た遠望を集めました

■　四季折々　思いつくまま　 From Kobe

1.　鉄道遺産　SL 山口号が京都梅小路で解体修理された　2006.8.18.

9.　2006 年　9 月　「IRON ROAD 和鉄の道」　from　Mutsu　Nakanishi

初秋

魏志倭人伝の九州北部　壱岐〔一支国〕・唐津〔末盧国〕・筑紫・博多〔奴国〕　　を古代史の仲間と訪ねました。2006.9.7.-8.

日本最古の水田跡が見つかった唐津菜畑遺跡の復元水田では古代米が 赤紫の穂を風にたなびいていました。

弥生遺跡が集中する神戸西部の丘陵地　弥生の高地性集落が見下ろす伊 川谷の平野部でも黄金の稲穂を足れています

2006.9.15.　　Mutsu Nakanishi

菜畑遺跡　復元水田の古代米

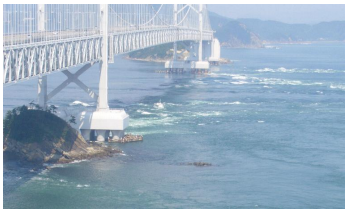
烏賊が軒先に干される壱岐への玄関口　呼子の夜明け

今　弥生の高地性集落を訪ねることにはまっています
稲作と鉄が日本に戦さを持ち込んだといわれ
弥生時代を見れば　製鉄技術伝来のようすが、また　倭の国づくりが見えてくるかも知れぬ
〔　まだ　未整理ですが、下記に資料仮インストール　次回に整理して　アップします　　2006.9.12.〕

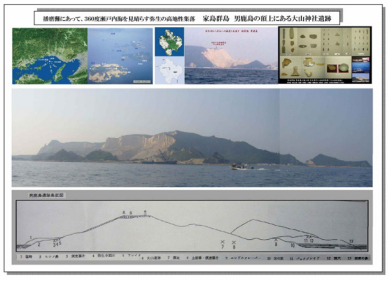
図8 瀬戸内海の高地性集落

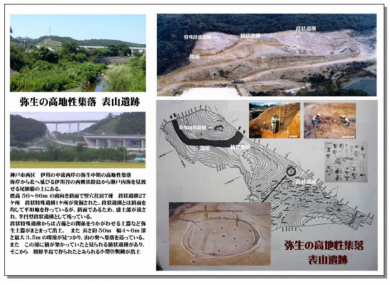
1. 弥生の高地性集落【2】播磨灘に浮かぶ砕石の島　男鹿島
   砕石場として削り取られて　行けない島の頂上の大山神社遺跡を訪ねて
2. 弥生の高地性集落【3】摂津・播磨の境　西神戸の玉津・伊川谷に点在する弥生集落群
   伊川谷　表山高地性弥生集落と周辺の弥生遺跡を訪ねて
3. 北部九州は魏志倭人伝の世界　　壱岐・筑紫の遺跡を訪ねて
4. 弥生の高地性集落【4】
   弥生の高地性集落に「弥生の戦」・「日本人のルーツ」を探して　2006.9.25.
   4.1.　日本人誕生と弥生時代の展開
   4.2.　農耕社会の展開と鉄の役割
   4.3.　北部九州の甕棺墓が語る「弥生の人口爆発と戦」

弥生の集落遺跡が点在する神戸伊川谷　　筑紫　邪馬台国の王都??吉野ヶ里遺跡　一支国の王都　壱岐　原の辻遺跡



明石海峡・明石大橋　　鳴門海峡・大鳴門大橋　　紀淡海峡・住金和歌山遠望





10.　2006年　10月　「IRON ROAD 和鉄の道」　from　Mutsu　Nakanishi

深まり行く秋　１０月

上段　神戸　コスモスの丘　と　実りの秋の神戸伊川谷　表山弥生の高地性集落周辺

中段　兵庫ののぢぎく国体　マスコット「ろぼたん」　と　グリンスタジアム周辺

下段　山口の田中さんから戴いた木々が色づきはじめた山口市吉敷の秋

青空がどこまでもひろがり、田圃には黄金の穂　コスモスが淡いピンクの花をつけ、足早に秋が広がっています。
夏の蒸し暑さとすっきりしない天候から　秋晴れが続く気持ちのいい季節です
山口の田中さんからは、稲穂が揺れ、周囲の木々が色づきはじめたとの季節のたよりをもらいました
いかがお過ごしでしょうか・・・・
神戸では　早実と苫小牧の高校野球に眼が集まっている国体がはじまり、メイン会場が直ぐ近くのこともあってメイン道路には国体の旗がはためき、　スポーツウェアの選手たちを街で多く見かけます。
久しぶりに　バスケットボール　バスケット王国　秋田／福井　高校の準決勝を見ました。 レベルは随分違うでしょうが、でも　やっぱり　自分がコートに立っているようで力がはいりました。 パフォーマンスの多い個人技がめだって　世相と同じで　われもわれもと流行を追っているようでした。
バスケットのスタイルも変わったなあ・・・・・と。
野球もサッカーも世界レベル　世界に通用するバスケットには　これでなければ対抗できないのでしょう。はやく世界に通用するようになってほしい。
50 年ぶり　都道府県を一周しての国体　前の国体が私が尼崎の中学生の頃で、神戸には国体道路がとおり、王子陸上競技場・神戸高校の新設の体育館に眼をみはり、町中が国体に沸いていた記憶と国体賛歌なる歌を唄った記憶があるのですが、もうメロディーも歌詞も出てきません。
信州の人達は直ぐに「信濃の国」の歌が出てくるのですが・・・　兵庫にはそんな歌もなく、開催といってもいたって静かです。
おもいがけず　連絡のとだえていた山口の仲間から　電話で元気な声
うれしくなって　ついつい　昔の長話でした

こっちの方もいろんな方に　ご無沙汰しているなあ・・・・と。

2006.10.5.　Mutsu Nakanishi

約２ケ月　ホームページ　手を入れていませんでしたが、やっと更新できました。

この春　六甲の山裾の丘陵地にある弥生時代の高地性集落「会下山遺跡」を教えていただいて、７月　　会下山からロックガーデンを歩いたのを皮切りに　９月末まで　周辺の弥生の高地性集落遺跡を訪ねての　Country Walk　に明け暮れていました。

「弥生の高地性集落」はこの時代の生業「水田稲作」にそぐわない、平野部をみおろす山上にあり、「周囲の集落と連携する戦への備え」といわれる。まだ良くわからぬ集落。「

弥生の戦い」といっても　遠いどこか遠くの話と思っていましたが、神戸・大阪周辺でも石や鉄製の鏃や槍・剣の刺さった人骨が続々出土すること知って、びっくりです。

18 ケ所も石鏃の刺さった人骨など弥生の戦を示す人骨が出た神戸市西区新方弥生遺跡

左:神戸市西区　弥生の高地性集落伊川谷　表山遺跡

弥生の集落群が点在する伊川谷と高地性集落表山遺跡

「一体　誰が戦ったのか・・・・　縄文人と弥生人の戦か????

縄文人は弥生の天下になって　どこへ消えたのか????　」

「渡来人が『鉄と水田稲作』が弥生の時代に戦を持ち込んだ」とよく言われ、「渡来人」ともうひとつの極　縄文人のイメージで語られる東北の「蝦夷」も弥生時代に生きた人。そして　それらの「弥生人が現代人のルーツ」と知識は出てくるのですが、頭の片隅には渡来人も蝦夷も自分とは遠い存在・・・・と。

そんなことも　はっきりさせたいと・・・・　　鉄の役割・伝来のルートももっとはっきり見えてくるかもしれないと。 また、昨年から古代史の仲間といっしょに計画していた壱岐・北部九州の遺跡を訪ねる旅もこれに加わっていろんなことが見えてきました。 まだ　本当か　どうか　よくわかりませんが、一連の Country Walk を整理して　並べました。

- 姫路沖　播磨灘に浮か男鹿島の頂上にある高地性集落
- 神戸西端の明石川流域　玉津・伊川谷に高地性集落と弥生の戦を訪ねて
- 北部九州　魏志倭人伝の世界　壱岐・筑後・筑紫の遺跡を訪ねる旅
- 鉄と水田耕作がもたらした弥生の戦と日本人のルーツ　　縄文人はどこに消えた・・・・

など　鉄をキーワードにした Country Walk の面白さです。

明石平野　弥生の集落分布　　瀬戸内の海道　播磨灘の男鹿島　北部九州・壱岐のたび　Country walk

「鉄」もちょっぴりですが、歩いています 四国で初めて古代の製鉄炉が出土した今治の高橋佐夜ノ谷製鉄遺跡の発掘報告会を兼ねたシンポジュームがあると案内をもらって９月１６日今治に行ってきました。

古代の製鉄炉???　もつと新しい炉では・・・・と思える美しい石を敷き詰めた下部構造を持つ炉にどんな結論がだされるのか　興味津々で出かけました。　本当に素晴らしい内容のシンポで　古代の製鉄炉の変遷がこの製鉄炉の位置づけと共に報告されて、来た甲斐があったと・・・・。

私の訪れたことのある幾つかの遺跡　もう　忘れかけていたものもあるのですが、それらがきっちり　居場所を得て位置づけされたのもうれしい限りでした。

しっかりした　報告書がだされていますが、うれしくて　その内容ホームページに抜粋掲載しました。

また　神戸には製鉄遺跡がないなあ・・・・とふっともらすと「三宮の北　二宮筋　フロインドリーフになっている旧ユニオン教会の近くの旧二宮小学校跡地は古代の大きな鍛冶工房跡ですよ」と教えてもらった。

布引から三宮に流れる生田川の旧左岸　市街地のまんまん中でした。この生田川から約 0.7km ほどの間隔で都築川・石屋川・住吉川と六甲から３本の川が流れ下るが、いずれにも大きな古墳があり、周辺にスサノオを祭る神社が多いこと　また　この古墳から出雲系の土器や鉄器が数多く出ることから、この地の首長が出雲・但馬・播磨・摂津を通って大和への鉄のルートを握っていたのではないかという。そうなると二宮の製鉄遺跡が見えてくる。神戸など平清盛まで小さな村と思っていましたが、そうでない一面もある。

歩いてみると知らない神戸が見えてきます。

四国で初めての古代の製鉄炉　今治の高橋佐夜ノ谷【2】製鉄遺跡の発掘報告会を兼ねたシンポジューム

今回　写真や報告内容多く　PDF file にまとめましたが、お許しください。ひまな　折にでもご覧ください。 まだ　おなじことやっているのか・・・・・・・といわれそうですが、楽しみと元気な証拠とお許しください。 ご意見・情報や Country walk のお誘いなどいただければ　幸いです。

2006.10.5.　神戸にて　　Mutsu Nakanishi

掲載記事　概　要　　【　2006 年 10 月　new　page　】

■　和鉄の 道　Iron Road　　たたら遺跡探訪

1.「和鉄の道」　弥生の高地性集落【2】

播磨灘に浮かぶ砕石の島　３６０度展望　男鹿島　　2006.8.1. & 8.4.

弥生の高地性集落「男鹿島　大山神社遺跡」を訪ねて

姫路沖播磨灘のまんまんなかに島全体に岩肌むき出の砕石の島　「男鹿島」がある。
ここは瀬戸内海をぐるりと 360 度見晴らせ、島の頂上には弥生時代　瀬戸内海を監視する高地性集落があった
今は島全体が巨大な採石場となり、島の頂上部にもたどれないすごい場所でした
ここは瀬戸内海の海道を大阪湾に入ってくる要衝の地　戦いの備えとしては最適の地であったろう

2.「和鉄の道」弥生の高地性集落【3】

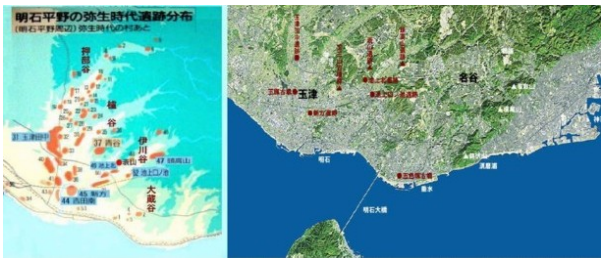
弥生の高地性集落「表山遺跡」とその下に広がる弥生の遺跡群

畿内と播磨の境　明石川・伊川流域の明石平野は弥生から開けた先進地

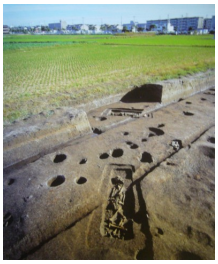
● 補足　写真アルバム

明石川流域　伊川谷・玉津に弥生の高地性集落と弥生の戦を訪ねて

神戸伊川谷　表山高地性集落遺跡周辺



明石平野　弥生の集落群



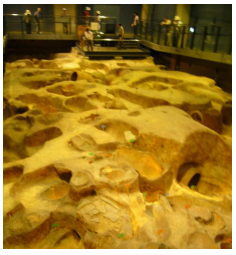
弥生の戦の跡を示す
殺傷痕のある人骨

摂津・播磨の国境　六甲山系の山々が明石海峡に落ちるその西側の明石平野は早くから開けた弥生の先進地
ここでは　18 ケ所も刺されたすさまじい人骨が見つかるなど「弥生の戦」があった
海岸の平野部から奥へ深くなだらかな谷が広がる玉津・伊川谷・押部谷の谷筋の丘陵地には弥生時代　数多くの集落と 高地性集落があった。また瀬戸内海を見渡せる摂津・播磨の国境の要衝として古墳時代にもこの地を収める首長も大きな古墳を築いている。
今も　それら丘陵地の山上からは明石海峡から淡路・小豆島・播磨灘と古代の海道が見張らせる。
また、須磨で明石海峡の海に六甲・垂水丘陵地に隔てられて東に広がる大阪湾は見えず、この地が国境であること実感できる。
その伊川谷・玉津の弥生の集落と弥生の戦を訪ねて Country walk　　PDF 写真ファイルにまとめました
蛇足ながら、東の垂水丘陵五色山には明石海峡をすぐ下にみおろす有名な五色山前方後円墳があるが、これは大和の勢力下 にあった大阪湾みなみの勢力が進出してきたものと考えられている。

3.　「和鉄の道」&　「風来坊」

写真アルバム　水田耕作・鉄・倭国　弥生の時代を作った渡来人たち

北部九州　魏志倭人伝の世界　壱岐・筑前・筑後の遺跡を訪ねて



日本列島に鉄と水田稲作の文化をもたらした弥生の渡来人たち　魏志倭人伝に登場する北部九州・壱岐の遺跡を訪ね、その訪問写真アルバムを PDF file にまとめました。
吉野ヶ里は背振山を背に卑弥呼の王都が復元素晴らしい歴史公園に。又弥生の始まりを示す唐津菜畑には古代米

の赤紫の穂が揺れていました。 行きたかった壱岐原の辻もゆっくり見れました。
福岡金隈遺跡　300 を超える弥生人が甕棺の中に眠るさまは圧巻でした。
縄文時代から弥生のおわりまで、北部九州へやってきた渡来人のダイナミックな活動がみられすばらしいツアーでした。

4. 「和鉄の道」　弥生の高地性集落【4】

弥生の高地性集落に「弥生の戦」・「日本人のルーツ」を探して　　2006. 9. 25.

4. 1.　日本人誕生と弥生時代の展開
4. 2.　農耕社会の展開と鉄の役割
4. 3.　北部九州の甕棺墓が語る「弥生の人口爆発と戦」

この夏訪ねた弥生の高地性集落や北部九州の旅で知ったことを中心に　「弥生の鉄」が果たした役割と「弥生の戦」を通じて　垣間見た日本のルーツ。 日本人のルーツについて　整理して所見をまとめました。
こんなに身近なところで　弥生の戦があったこと知りました。また　消えた縄文人の謎も垣間見えた気がしています。

5. 「和鉄の道」　四国で初の古代製鉄炉　今治　高橋佐夜ノ谷Ⅱ　製鉄遺跡　発掘報告会

愛媛大・今治市共同シンポジュウム

「鉄と古代国家　今治に刻まれた鉄の歴史」　　2006. 9. 16.

四国で初の古代製鉄炉　今治　高橋佐夜ノ谷Ⅱ　製鉄遺跡

本年 7 月に訪れた四国で初めて出土した今治　高橋佐夜ノ谷Ⅱ製鉄遺跡の発掘報告会を兼ねたシンポジュームが今治であり、出かけました。
素晴らしい整った古代の製鉄炉。 どうも　大和王権が鉄の需要のある地域の前線に建てた鉄のコンビナートに類型を見る箱型の規格炉の可能性があるとの報告。 これが　事実なら　この今治にも　北部九州元岡　近江野路小野山　相馬原町金沢などの古代製鉄の大コンビナートの可能性ありと夢が膨らむ。
中国山地の吉備などではじまった古代製鉄が大和王権で大規模規格課化され、それが大和王権の前線基地でセイテツコンビナートとして機能したという。　すっきりとしたまとめにいっぺんに納得でした。
また　上記シンポジュウム会場写真で発掘にあたられた愛媛大　　教授が指し示して説明されているのは会場に設営された遺跡の剥ぎ取り実物模型。
開発で次々と破壊される遺跡　研究者しか理解できない図面の作成で終わるのが常　壊され行く遺跡の実態保存に常々　もっと工夫がないのか・・・・と思っていましたが、　こんなことが簡単に出来るようになっています。

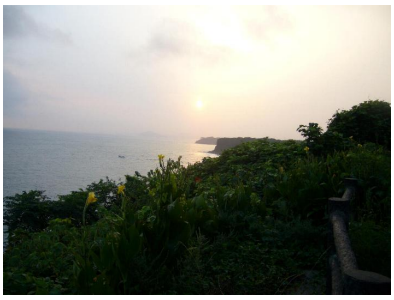
■　風来坊　Country Walk

1.　「和鉄の道」& 「風来坊」

写真アルバム　水田耕作・鉄・倭国　弥生の時代を作った渡来人たち

北部九州　魏志倭人伝の世界　壱岐・筑前・筑後の遺跡を訪ねて

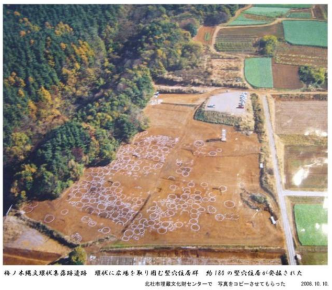
上記した北部九州の旅を　「風来坊」の項にも収録しました。



菜畑遺跡　復元水田の古代米　　烏賊が軒先に干される壱岐への玄関口　呼子の夜明け

壱岐　魏志倭人伝「一支国」の王都　原の辻遺跡

11.　2006年　11月　「IRON ROAD 和鉄の道」　from　Mutsu　Nakanishi



上段　　山口・美祢の秋　　左:吉敷の紅葉　中央:美祢の朝霧　右:津和野の町

中段　　甲州路　　左:八ケ岳　中央南アルプス　右:茅ケ岳

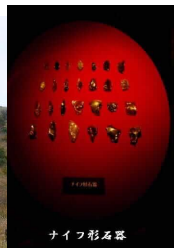
下段　　左:清里の白樺　中央:星糞峠黒曜石原産地遺跡　右:縄文の環状集落　梅ノ木遺

１１月 25 日　秋の Country Walk をベースに　ホームページを更新しました

今年も残り 1 ヶ月あまり。紅葉が始まる頃にはホームページを更新したいと思っていましたが、ホームページ更新が今日になってしまいました。 世の中のスピードとは裏腹に　だんだんスピードが落ちていますが、まあ　元気なのがとりえ　「ぼち　ぼち」です。

雄大なアルプスの山々を見晴らす丘陵地で　　**祖先と一緒の丸い環の中で暮らす縄文人**

雑木林の山の斜面に今もキラキラ輝く黒曜石　**「星糞峠」の名はそんな縄文人の黒曜石鉱山につけられた**



春から計画しながら　中々実現できなかった　信州の縄文遺跡を訪ねる旅　10 月はじめ　家内と二人　八ヶ岳山麓の清里に 1 泊してやっと実現しました。

家内いわく「縄文人はこんな景色のいいところに住んでたんだ・・・・・」と。

日本人の心を映すといわれる甲州　八ヶ岳・茅が岳山麓の北杜市の梅ノ木縄文環状集落遺跡

縄文人の道具・宝石となった黒曜石　それを採掘して全国に運ばれた　霧ケ峰・星糞峠の黒曜石原産地遺跡

ゆったりとした初秋の甲州・信州の自然を満喫しながらの縄文人の足跡　メージをいっぱい膨らませて出かけましたが、それ以上でした。

又、リタイアして　甲州に帰った友にも久しぶりに会え、世話になりました。

■　抱擁　－「『宗教・教派を超えた平和の祈り』の集い」「広島国際平和会議」に参加して－　　2006.11.1.&11.2.

11 月 1 日 2 日 広島でノーベル平和賞を受賞した 3 人(南アフリカ　ツツ聖公会名誉大主教・北アイルランド　ベティー・ウイリアム女史　　チベット　ダライラマ 4 世法王)を迎えての「広島平和の祈り」の集いと広島国際平和会議 2006 に参加しました。 3 人とも宗教・人種差別の厳しい状況の中で起った戦争を乗り越えて　戦い・武器を取ることを否定して平和の実践活動でノーベル平和賞を受賞した。

「平和を勝ち取るには　戦わねば・・・・」が主流の最近の世相。「宗教」や「非暴力・平和主義」がパッシングにさらされている中で、それぞれ　宗教の違う彼らが「今　何を語り、何を教えてくれるか」それが知りたくて参加してきました。

みんな個性の強さがあふれる厳しい平和運動の実践家と思っていましたが、穏やかな話しぶりに人なつっこさがあふれる人達で、言葉はちがいますが、3 人が 3 人とも平和の実践の基本に「人類愛　　ひとつひとつ大切な命」のレベルで分かり合えば　困難は乗り越えられると。

言葉に出してしまうと本当に簡単ですが、説得力のある言葉でした。

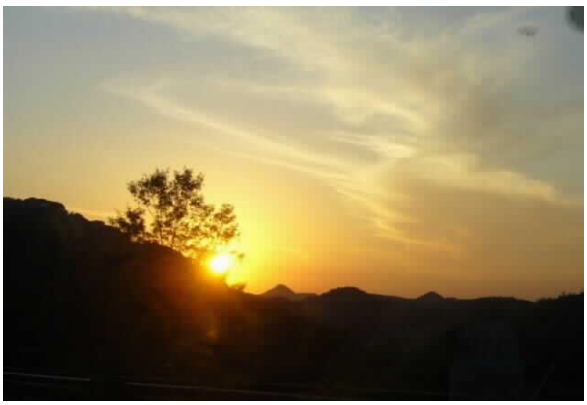
とくに　会場から　激情の中で　会議を止め、壇上の 3 人にアメリカ・メキシコ国境の惨状を訴え始めたとき、すかさず　会場にいた外国人の一人が訴えている人にかけより、抱擁し、壇上の人達もそれに答え、そして拍手が巻き起こりました。

最近大リーグの試合でベンチに帰ってくる仲間をひとりひとりが抱擁で仲間を出迎える場面が映し出されることが、多くなりましたが、私にはまだ　そうしきれない。
でも　それが　会議の中　目の前で　突然　しかも自然になされたことに本当に感激しました。これが　彼らの言う言葉かと。
また　ベティ・ウイリアム女史が「子供たちのことで　考えよう。そして　自らが　自らに立ち返って　小さくても行動しよう。世界に手をかそう。そうすれば乗り越えられる　そうやって　北アイルランドでは平和がもたらせようとしている」と語られたのが印象的でした。
「戦」を知らなかった縄文人　「戦」を経験した弥生人　日本人にはその両方の気質が内にある。それを　どうコントロールしてゆくのか・・・・・
「武器を取らねば　平和は勝ち取れない」の声に立ち消されそうでしたが、「平和　ひとつ　ひとつの命」その環の広がりにかけようと元気付けられました。

■　例年の秋　山口・美祢　Country walk　「美祢の朝霧」

今年はかつて美祢で一緒に仕事した仲間も加わって、11月6日から1週間　山口の深まる秋を楽しんできました。
何年も一度は写真にとりたかった「美祢の朝霧」　美祢の町を覆う雲海は撮れませんでしたが、朝霧がただよい深まり行く秋の写真が取れました。
山口吉敷の萩焼作陶家の田中さんの「萩」の新しい作品にも。
萩の街で開かれている国民文化祭・やまぐち 2006「器と花とのコラボレート」展　萩の歴史遺産　旧武家屋敷の座敷で、格子戸や障子から差し込む淡い秋の日差しが花の生けられた花器に光と影を演出していました。
「花とのコラボレート」これ、もう何年か前　田中さんの作陶展で花の生けられた一連の花器の生き生きした姿に　田中さんと二人でつけた名前でした。

早く　更新しようと思いながらも　結構ばたばたです。
同じ仕事をしてきた仲間も大半が第二の人生　いろんなところで　みんな　新しいことに取り組んで、海外でバリバリの仲間も。 メールをいただいたり、訪ねたり。　いつもフレッシュな気を与えてもらっています。
また　訃報を聞く機会も増えました。　どうか　早く元気に　立ち直ってほしい
まもなく　12月クリスマスのシーズンに入り、神戸では　例年のルミナリエ。
仕事から離れた当座はどう過ごしたらいいのか　手持ち無沙汰の12月でしたが、やっと慣れてきました。
是非　一度　神戸にお立ち寄りください。
健康で元気なのが　何より一番　と思っている此の頃です
また　ホームページの通信欄が長いこと不通でメールが送れぬ状態になっていました。
教えていただいて、やっと直しました。もう大丈夫です。
ご意見・情報やCountry walk のお誘いなどいただければ　幸いです。


山口県　秋芳の夕日

2006.11.25.　神戸にて
Mutsu Nakanishi

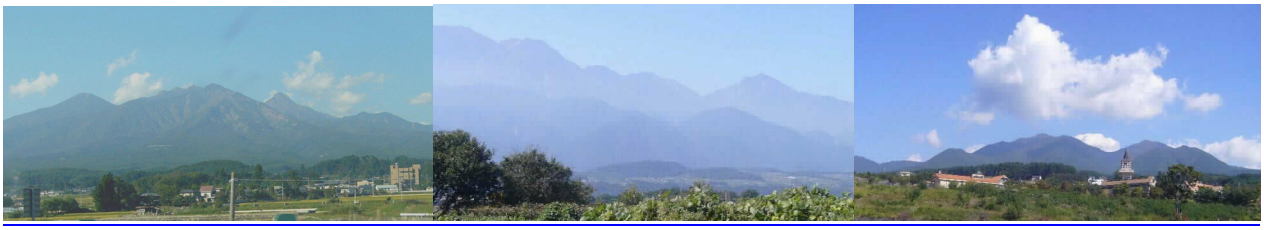
掲載記事　概　要　　【　2006 年 11 月　new　page　】

■　和鉄の道　Iron Road　　たたら遺跡探訪

1. 甲州・信州国境　八ヶ岳山麓に縄文遺跡を訪ねて

縄文人は山を見晴らす素晴らしい高原に住んでいた

「縄文人は山を見晴らす素晴らしい高原に住んでいた」2006. 10. 6. -10. 10.



中央高速道路　諏訪から甲府沿い　　北杜市周辺より　左：八ヶ岳　中央：南アルプス　右：茅ケ岳

1.　日本人の心の故郷　　縄文の集落がそっくりそのまま見つかった　　【Pdf File 】
　　茅ケ岳山麓の北杜市梅ノ木縄文集落遺跡を訪ねる

2.　初秋　白樺が美しい　紅葉し始めた清里の朝
　　八ケ岳　清里　清泉寮に泊まって

3.　縄文の黒曜石原産地遺跡　　黒曜石」を日本各地に配っていた信州　霧ケ峰・中山峠【Pdf File 】
　　長和市星屑峠に縄文の黒曜石鉱山を訪ねる

今年の初め、新聞に茅が岳山麓で祖先を祭る広場を取り囲んで住居が建ち並ぶ縄文の集落がそっくりそのまま出土したという。　弥生が戦さの時代といわれるのに対し、戦さのない素朴な日本人の心の故郷といわれる縄文の象徴である。常々一度しっかりそんな村を見たいと思っていた集落が今なら見られる。しかも　出土したところが縄文のビーナスなどが出土した八ケ岳山麓に続く東隣の茅が岳山麓。 この山の北側　霧ケ峰・中山峠には糸魚川の翡翠と共に日本各地にその痕跡が見られる黒曜石の原産地である。

この八ケ岳山麓の縄文遺跡をめぐる Country Walk　10 月の初め　家内と二人　車で出かけました。

家内いわく「縄文人はこんな景色のいいところに住んでいたんだ・・・・・」と。

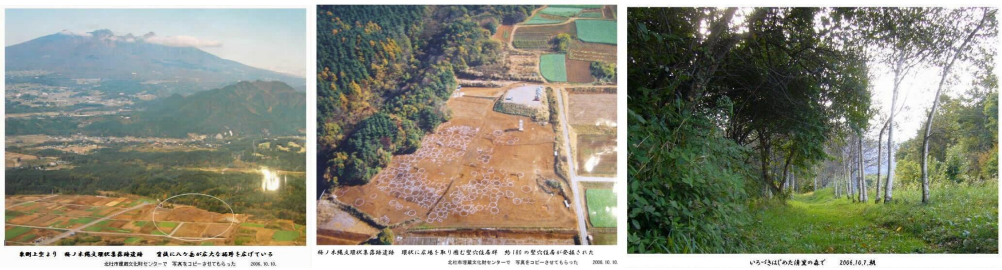
日本人の心を映すといわれる甲州　八ケ岳・茅が岳山麓の北杜市の梅ノ木縄文環状集落遺跡

縄文人の道具・宝石となった黒曜石　それを採掘して全国に運ばれた　霧ケ峰・星糞峠の黒曜石原産地遺跡

ゆったりとした初秋の甲州・信州の自然を満喫しながらの縄文人の足跡　メージをいっぱい膨らませて出かけましたが、それ以上でした。　又、リタイアして　甲州に帰った友にも久しぶりに会え、世話になりました。

八ケ岳の信州側　霧ケ峰との間の深い山間　鷹山　星糞峠は縄文人の黒曜石の大鉱山

静かな森の中で　キラキラと黒曜石が輝いていました　それが星糞峠の名になったという・・・



八ケ岳の西　茅が岳山麓の丘陵地から縄文の環状集落遺跡がそっくりそのまま出土　北杜市梅ノ木縄文遺跡

正面に南アルプス　東に富士山　西に八ケ岳が遠望される素晴らしい位置にある

■　風来坊　Country Walk

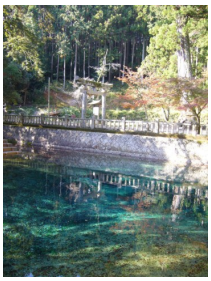
1. 山口・長門の秋　2006 写真アルバム　美祢の朝霧　2006.11.7.-11.

1. 晩秋　美祢の朝霧　　美祢市来福台で
2. 秋芳町から山口へ　秋吉カルスト台地　&　鳳翩山 山麓で
   - ● 山口吉敷の郷　赤田神社の紅葉
   - ● 秋芳町　別府弁天池
3. 萩で　国民文化祭　陶芸展と萩の街
4. 津和野の秋

美祢の朝霧

山口市吉敷　赤田神社の紅葉

11 月 6 日から 11 月 11 日まで　山口県美祢の家に出かけました。
もう　例年になりましたが、秋の草取りをかねて、昔の仲間や山口の知人にであったり、山口・美祢の秋を楽しんできました。 今年は美祢で一緒に仕事をした友も一緒で、美祢では思いもかけず仲間が帰ってきてくれたり、訪ねてきてくれたり。 久しぶりに美祢の横丁にも出かけました。
季節は秋たけなわ　山口の一番美しい季節。山口・美祢の秋の写真をアルバムにしました。
何年も一度は写真にとりたかった「美祢の朝霧」　美祢の町を覆う雲海は撮れませんでしたが、朝霧がただよい深まり行く秋の写真が取れました。
山口吉敷の萩焼作陶家の田中さんの「萩」の新しい作品にも。



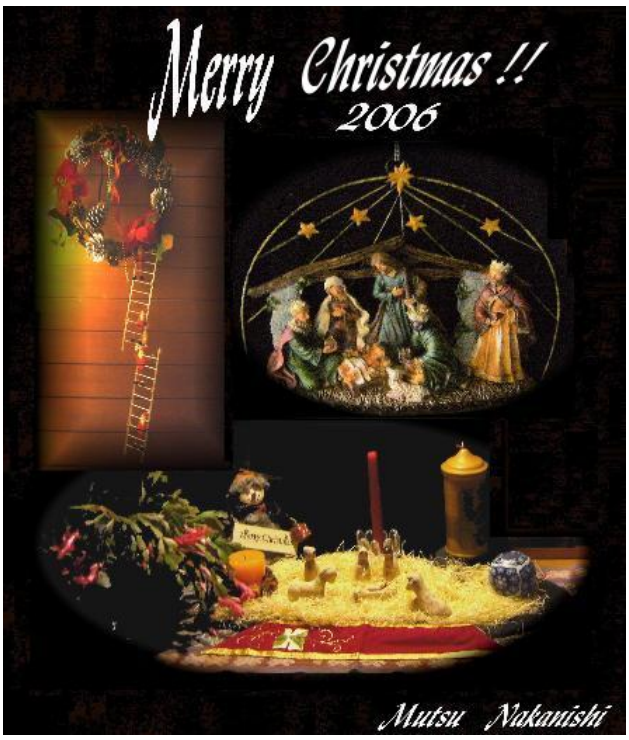
萩市で　　秋芳別府弁天池　　津和野の町

2.　甲州・信州国境　八ヶ岳山麓に縄文遺跡を訪ねて
　　縄文人は山を見晴らす素晴らしい高原に住んでいた　2006.10.6.-10.10.
　　【和鉄の道と同じファイルを転載しています】

■　from Kobe　　思いつくまま
　　抱　擁　－「『宗教・教派を超えた平和の祈り』の集い」「広島国際平和会議」に参加して-

12.　2006年　12月　「IRON ROAD 和鉄の道」　from　Mutsu　Nakanishi

2006.12.12.



「　愛・永遠に注がれる神の愛　」

「クリスマス Christmas」 は本来 「キリストのミサ(キリスト最後の晩餐の式)・聖餐式」を意味します

キリスト誕生前 4 週間の期間 ： アドベントがはじまり
ろうそくに灯がともると
クリスチャンは
　ひとりひとりすべてのひとに注がれる永遠の愛
　世界・社会そして教会・家族との交わり
に思いをめぐ　らし、クリスマスの到来を待ち望み、そして　クリスマスを祝います

「すべての人に愛を　変化は自らの心からはじまります」
戦・武器では平和は訪れない　一人ひとりを大切に
世界・地球に愛の手を
2006.9.6.広島国際平和会議宣言より
「貧困は平和への脅威　世界の貧困撲滅を」
2007 年ノーベル平和賞授賞　グラミン銀行総裁　ユヌス氏

「命ドゥ宝・ヌチドゥタカラ　(命を大切に)」

「命ドゥ宝・ヌチドゥタカラ　(命を大切に)」　沖縄の古いことばを今年の夏知りました。
「いのち」ということばが語られる時は「戦争」「平和」と重ねられはるか遠い世界の話でしたが、　今年ほどこの「いのち」のことばが現実味を持って身近に語られたことはない。
「学校で　会社で　そして　社会で　そして　世界で」使われた「命　大切に」のことばとは裏腹に
これほど粗末に扱われているのか・・・・・・
時代が変わる　時代に乗り遅れる　そんなことばの前に　命の大切さが切り捨てられる。
IT・グローバル・国際競争力など心地よい先端性のことばの下に　時代の担い手が　それに追い討ちをかける

でも　声を大きく再度　「かけがえのないいのち　命大切に　命ドゥ宝」
「一つ一つの命にかかわり、世界に手をかそう」と。
2006.12.15.　クリスマス近く　今頭にある思い
Mutsu　Nakanishi